



# Netra™ 1290 サーバー設置 マニュアル

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 819-6898-10  
2006年8月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun Fire、Sun StorEdge、OpenBoot、SunSolve、Netra、AnswerBook2、docs.sun.com は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー・インターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	<i>Netra 1290 Server Installation Guide</i>
	Part No: 819-4372-10
	Revision A



Please  
Recycle



Adobe PostScript

# 目次

---

はじめに ix

1. サーバーの開梱および設置 1

サーバーの開梱 1

スライドレールの取り付け 4

スライドレール部品の調節 5

Sun Fire または StorEdge キャビネットでのスライドレール部品の取り付け 9

▼ 下部位置にスライドレール部品を取り付ける 9

▼ 上部位置にスライドレール部品を取り付ける 10

Sun Rack 900 キャビネットでのスライドレール部品の取り付け 11

▼ 下部位置にスライドレール部品を取り付ける 11

▼ 上部位置にスライドレール部品を取り付ける 13

19 インチの 4 ポストキャビネットでのスライドレール部品の取り付け 13

▼ 19 インチの 4 ポストキャビネットにレール部品を取り付ける 14

19 インチの 2 ポストラックでのレール部品の取り付け 14

▼ 19 インチの 2 ポストラックにスライドレール部品を取り付ける 15

キャビネットへのサーバーの設置 15

スライドレールのロックナットの取り付け 22

ケーブル管理アームの取り付け 24

電源ケーブルの接続	33
システムコントローラへのコンソールの接続	34
I/O アセンブリの接続	37
追加ハードウェアの取り付け	37
追加の周辺装置の取り付け	38
2. 設定	39
設定プロセス	39
ハードウェアの設定	40
オン/スタンバイスイッチ	40
オン/スタンバイスイッチの動作の無効化	41
サーバーの電源投入	41
サーバーのスタンバイモードへの切り替え	42
サーバーの設定	44
Solaris オペレーティングシステムのインストールおよび起動	46
Lights Out Management パッケージのインストール	48
A. Netra 1290 サーバーの接続	53
外部 I/O 接続の位置	53
PCI+ IB_SSC アセンブリ	54
SCSI コネクタ	55
SCSI 実装	56
アラームポート	56
NET0/NET1 Ethernet ポート	57
10/100BASE-T LOM Ethernet ポート	58
より対線 Ethernet ケーブルによる接続	59
LOM シリアルポート A およびシリアルポート B	59
シリアル接続での DB-25 アダプタの使用	61
シリアル接続での DB-9 アダプタの使用	61

# 目次

---

図 1-1	出荷用梱包箱の開梱	2
図 1-2	梱包箱の部品の取り外し	3
図 1-3	スライドレール部品 (標準構成)	6
図 1-4	ばね式のクリップおよび切り込み	7
図 1-5	2 ポストに取り付ける場合のスライドレール部品の変更	8
図 1-6	Sun Fire キャビネットでのスライドレールの取り付け	10
図 1-7	Sun Rack 900 キャビネットまたは 19 インチの 4 ポストキャビネットでのレールの取り付け	12
図 1-8	ドアのヒンジ機構の取り外し	16
図 1-9	架台のボルトの取り外し	17
図 1-10	架台へのリフティングデバイスの挿入	18
図 1-11	レールの位置合わせ	19
図 1-12	架台の取り外し	20
図 1-13	システムキャビネットへのサーバーの押し込み	21
図 1-14	固定ねじの締め付け	21
図 1-15	スペーサの挿入および締め付け	23
図 1-16	ロックナットの挿入および締め付け	23
図 1-17	CMA 留め具の取り付け用ねじ穴	24
図 1-18	CMA-Lite ケーブル管理アーム	25
図 1-19	上部および下部の CMA アームと左側および右側の T 型留め具	26
図 1-20	上部および下部のピボット式留め具の取り付け用ねじ穴	27

図 1-21	上部の CMA アームおよびピボット式留め具の取り付け	28
図 1-22	下部の CMA アームおよびピボット式留め具の取り付け	29
図 1-23	左側の T 型留め具の取り付け	30
図 1-24	右側の T 型留め具の取り付け	31
図 1-25	上部および下部の CMA アームの T 型留め具への取り付け	32
図 1-26	システムコントローラおよび I/O アセンブリの位置	36
図 2-1	Netra 1290 サーバーのオン/スタンバイスイッチ	40
図 A-1	外部 I/O 接続の位置	54
図 A-2	68 ピン SCSI コネクタ	55
図 A-3	DB-15 (オス) アラームサービスポートコネクタ	56
図 A-4	RJ-45 Gigabit Ethernet コネクタ	58
図 A-5	RJ-45 TPE ソケット	58
図 A-6	RJ-45 シリアルコネクタ	60

# 表目次

---

表 A-1	68 ピン SCSI コネクタのピン配列	55
表 A-2	68 ピン SCSI コネクタのピン配列 (続き)	56
表 A-3	アラームサービスポートコネクタのピン配列	57
表 A-4	RJ-45 Gigabit Ethernet コネクタのピン配列	58
表 A-5	より対線 Ethernet コネクタのピン配列	59
表 A-6	TPE STP-5 ケーブルの長さ	59
表 A-7	RJ-45 シリアルコネクタのピン配列	60
表 A-8	LOM シリアル A 接続のデフォルト設定	60
表 A-9	Sun の DB-25 アダプタでのピンの相互接続	61
表 A-10	DB-9 アダプタでのピンの相互接続	61





# はじめに

---

『Netra 1290 サーバー設置マニュアル』では、Netra™ 1290 サーバーのラック内への設置、電源投入、および構成の詳細な手順について説明します。このマニュアルは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ (ASP)、およびコンピュータハードウェアの設置と構成の経験のあるユーザーを対象としています。

---

## マニュアルの構成

第 1 章では、サーバーを開梱してキャビネットまたはラック内に設置する方法について説明します。

第 2 章では、サーバーのケーブル接続、電源投入、および設定作業の実行の方法について説明します。

付録 A では、コネクタの位置、信号、およびピン配列について説明します。

---

## UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX® コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris™ オペレーティングシステムのマニュアル

<http://docs.sun.com>

---

## シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine_name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

---

## 書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% <b>su</b> Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の変数部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% <b>grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`</b>

\* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

---

## 関連マニュアル

オンラインのマニュアルは、次の URL で参照できます。

<http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/>

用途	タイトル	Part No.	形式	場所
指針マニュアル	『Netra 1290 Server Getting Started Guide』	819-4378-10	印刷物 PDF	出荷用キット オンライン
保守	『Netra 1290 Server Service Manual』	819-4373-10	PDF	オンライン
管理	『Netra 1290 サーバーシステム管理マニュアル』	819-6907-10	PDF	オンライン
更新	『Netra 1290 Server Product Notes』	819-4375-10	PDF	オンライン
コンプライアンス	『Netra 1290 Server Safety and Compliance Guide』	819-4376-10	PDF	オンライン

---

# マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL
マニュアル	<a href="http://jp.sun.com/documentation/">http://jp.sun.com/documentation/</a>
サポート	<a href="http://jp.sun.com/support/">http://jp.sun.com/support/</a>
トレーニング	<a href="http://jp.sun.com/training/">http://jp.sun.com/training/</a>

---

## Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

---

## コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Netra 1290 サーバー設置マニュアル』、Part No. 819-6898-10

# 第1章

---

## サーバーの開梱および設置

---

この章では、Netra 1290 サーバーの開梱とラック内への設置について説明します。  
この章の内容は、次のとおりです。

- 1 ページの「サーバーの開梱」
  - 4 ページの「スライドレールの取り付け」
  - 15 ページの「キャビネットへのサーバーの設置」
  - 22 ページの「スライドレールのロックナットの取り付け」
  - 24 ページの「ケーブル管理アームの取り付け」
  - 33 ページの「電源ケーブルの接続」
  - 34 ページの「システムコントローラへのコンソールの接続」
  - 37 ページの「I/O アセンブリの接続」
  - 37 ページの「追加ハードウェアの取り付け」
  - 38 ページの「追加の周辺装置の取り付け」
- 

## サーバーの開梱

### ▼ サーバーを開梱する

1. コンピュータのリフティングデバイス进行操作するために、サーバーの周囲に十分なスペースを確保します。
2. パッケージの側面にあるプラスチック製のポケットから、黄色の Customer Information Sheet を取り出し、あとで参照できるように保管しておきます。
3. 梱包箱の保護パッドを取り外します。  
詳細は、図 1-1 を参照してください。

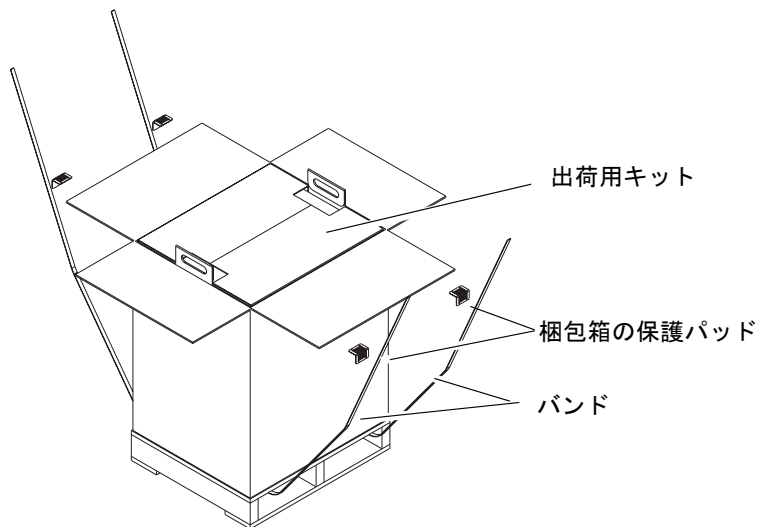


図 1-1 出荷用梱包箱の開梱

4. 外側のパッケージのバンドを切り、梱包箱を開きます。  
詳細は、図 1-1 を参照してください。
5. 出荷キットを取り出して開梱します。  
詳細は、図 1-2 を参照してください。

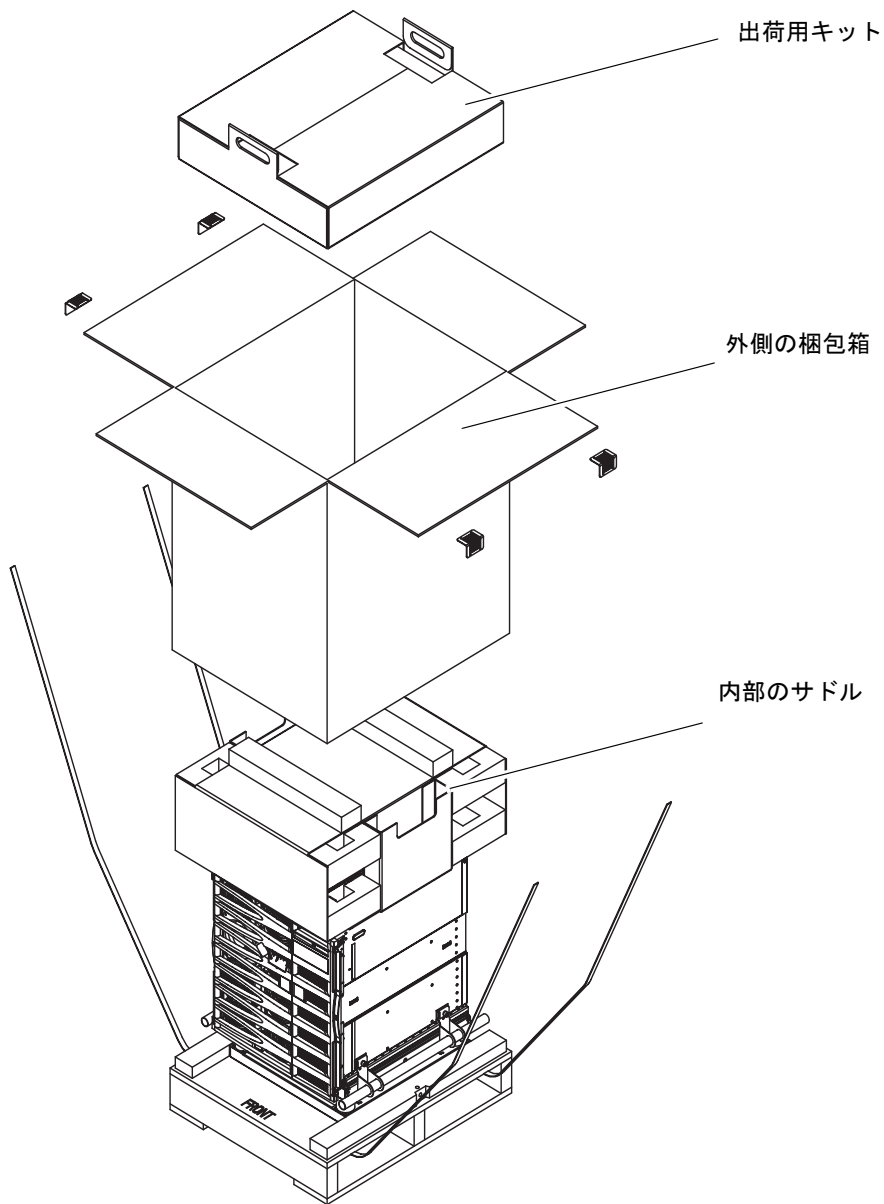


図 1-2 梱包箱の部品の取り外し

6. 外側の梱包箱を取り外します。  
詳細は、図 1-2 を参照してください。

7. 内部のサドルを取り外します。  
詳細は、図 1-2 を参照してください。
8. サーバーの袋を持ち上げます。
9. シャーシに損傷がないことを目視で確認します。
10. コンピュータのリフティングデバイスを使用して、サーバーを動作させる位置に移動します。

---

注 – Netra 1290 サーバーの電源コードは、個別のカントリーキットで提供されません。

---

---

注 – Solaris ソフトウェアおよび LOM ファームウェアは、サーバーにプリインストールまたは事前構成されています。

---

## スライドレールの取り付け



---

**注意** – キャビネットの安定装置が取り付けられている場合は、Netra 1290 サーバーをキャビネットから引き出す際に、必ずこれを伸ばしてください。

---



---

**注意** – 架台を含む Netra 1290 サーバーの重量は、約 130 kg (286 ポンド) です。サーバーをキャビネット内に安全に移動するには、コンピュータのリフティングデバイスを使用して 2 人で作業する必要があります。

---



---

**注意** – キャビネットが不安定にならないように、キャビネットからは一度に 1 台の Netra 1290 サーバーのみを引き出してください。

---

サーバーをキャビネットに搭載するには、スライドレールマウントキットを使用します。このキットには次の部品が含まれます。

- ロックスペーサ 2 個
- ロックナット 2 個
- スライドレール 4 本 (内部レール 2 本、外部レール 2 本)
- 8 mm レンチ





---

**注** – あらかじめキャビネットに設置されているサーバーを使用する場合は、24 ページの「ケーブル管理アームの取り付け」に直接進むことができます。

---

この節では、次の項目について説明します。

- 5 ページの「スライドレール部品の調節」
- 6 ページの「内部レールをサーバーに取り付ける」
- 8 ページの「2 ポストへの取り付け用にレールを準備する」
- 9 ページの「Sun Fire または StorEdge キャビネットでのスライドレール部品の取り付け」
- 11 ページの「Sun Rack 900 キャビネットでのスライドレール部品の取り付け」
- 13 ページの「19 インチの 4 ポストキャビネットでのスライドレール部品の取り付け」
- 14 ページの「19 インチの 2 ポストラックでのレール部品の取り付け」

## スライドレール部品の調節

各スライドレール部品は、次の 4 つの部品で構成されます (図 1-3)。

- スライドレール部品に取り付ける背面留め具
- 背面留め具に取り付ける調節可能な留め具 (調節可能な留め具は、構成によっては使用されない)
- スライドレール部品 (内部レールと外部レール)
- 正面留め具

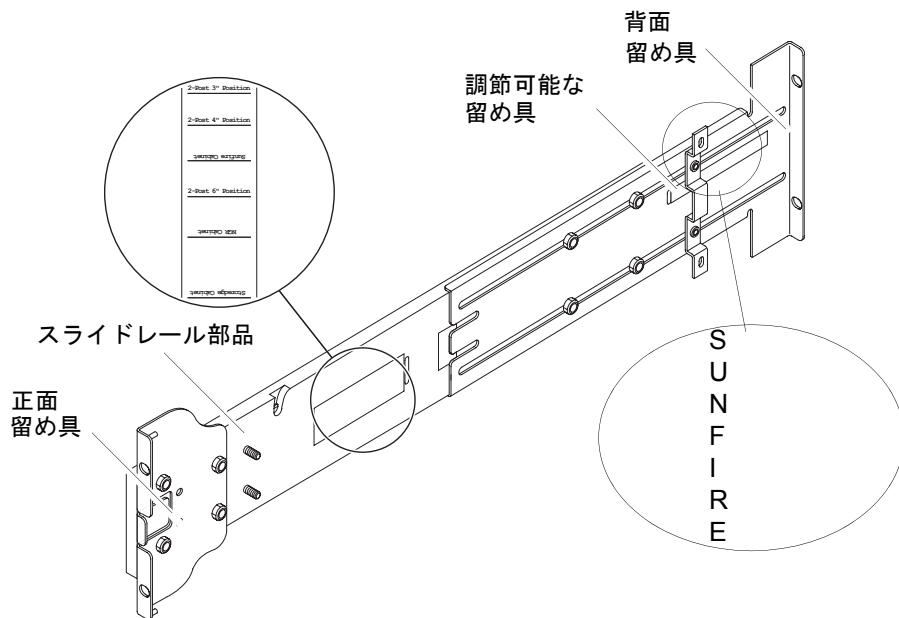


図 1-3 スライドレール部品 (標準構成)

背面留め具または調節可能な留め具の位置を調節して、部品の長さを変更します。スライドレール部品および背面留め具の金属部分には、特定のキャビネット用の留め具の位置が記されています。図 1-3 に、マークの位置を示します。

## ▼ 内部レールをサーバーに取り付ける

1. 内部レールをスライドレール部品から取り外します。
  - a. 緑色のラッチの隣にあるラッチを押し込みます。
  - b. 外部スライドレール部品から内部レールを引き出します。
2. サーバーの側面にある位置決め用の爪がレールの切り込みにはめ込まれるように、内部レールを押し上げます (図 1-4)。

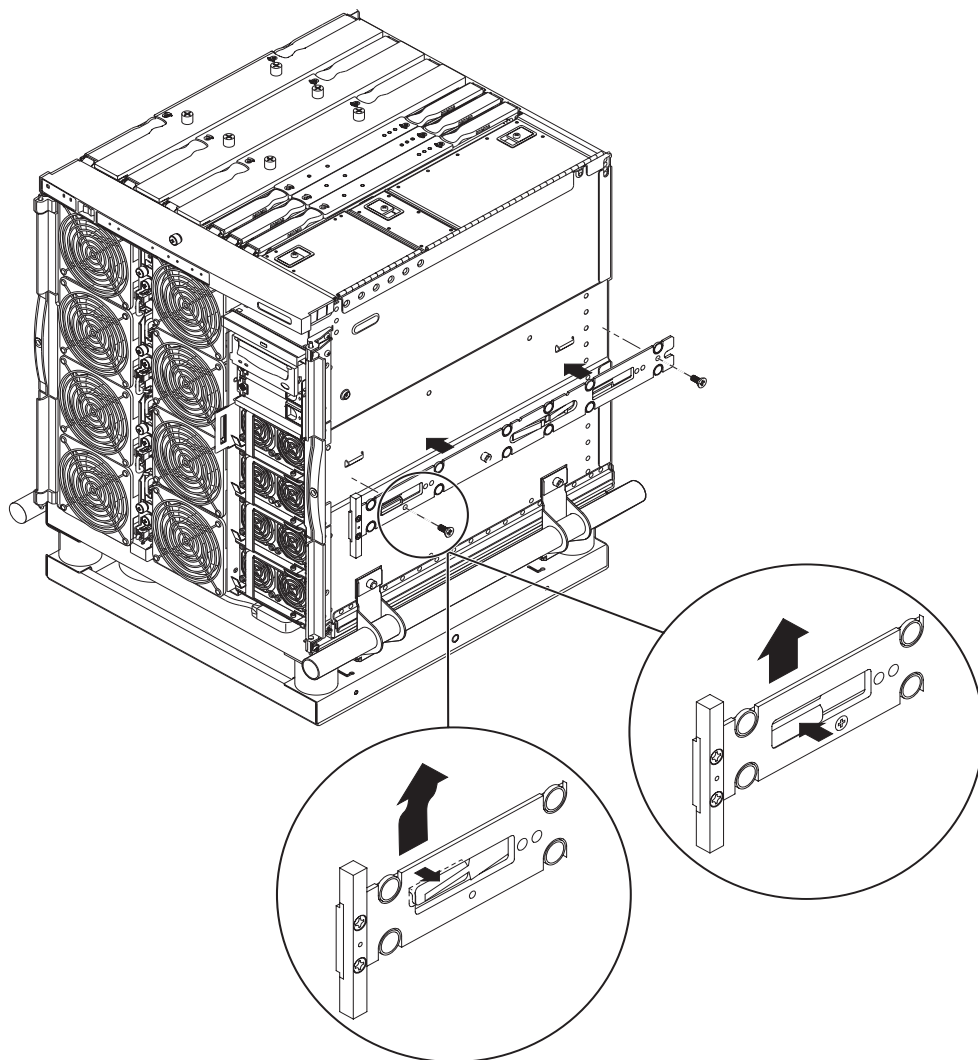


図 1-4 ばね式のクリップおよび切り込み

ばね式のクリップがかみ合うはずです。

---

注 - ばね式のクリップがシステムの留め金の上に位置するようにします。内部レールの本体の縁が、システムの留め金の下および後ろとかみ合うようにしてください。

---

3. レールごとに 2 本の 5×10 mm ねじを使用して、サーバーに内部レールを固定します。

4. 2 本めの内部レールに対して、手順 1 ～手順 3 を繰り返します。

## ▼ 2 ポストへの取り付け用にレールを準備する

2 ポストに取り付ける場合は、スライドレール部品を分解して、組み立て直すことができます (図 1-5)。スライドレール部品は、ポストの奥行きが 7.5 ～ 15.0 cm (3 ～ 6 インチ) の 19 インチの 2 ポストラックに合うように調節できます。

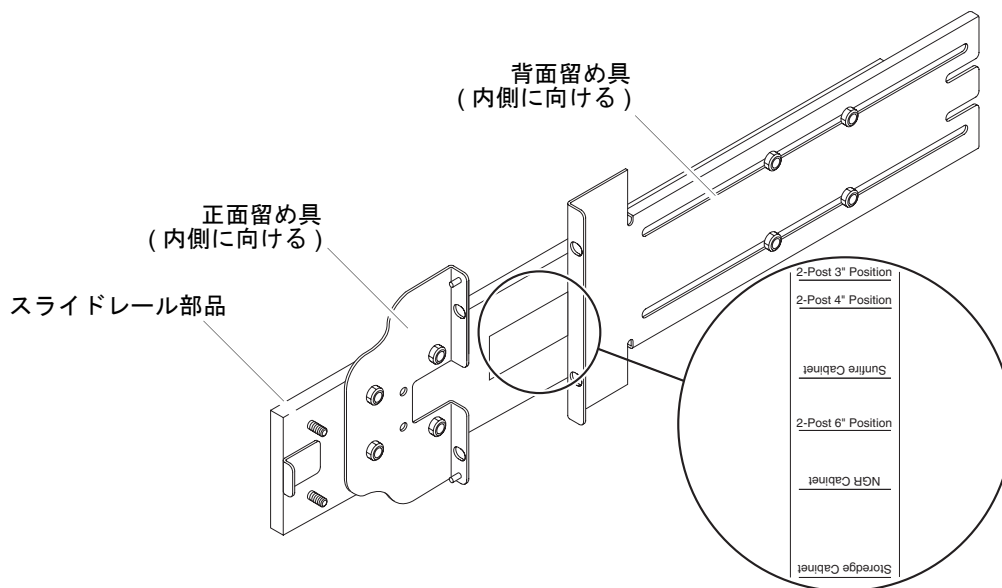


図 1-5 2 ポストに取り付ける場合のスライドレール部品の変更

1. 調節可能な留め具を固定するナットを取り外し、調節可能な留め具を廃棄します (図 1-3)。
2. 正面留め具を固定している 4 つのナットを取り外します。
3. 正面留め具を 180 度回転させ、内側に向けて固定します (図 1-5)。
4. 背面留め具を固定している 4 つのナットを取り外します。
5. 背面留め具を 180 度回転させ、内側に向けます (図 1-5)。
6. スライドレール部品の適切なマークに背面留め具を合わせて固定します。
7. 2 つめのスライドレール部品に対して、手順 1 ～手順 6 を繰り返します。

# Sun Fire または StorEdge キャビネットでのスライドレール部品の取り付け

Sun Fire™ および StorEdge™ キャビネットの正面と背面には、下から順に番号が付いた No. 10-32 UNF のねじ穴があります。

---

注 – スライドレール部品は、どちらの面も同じです。そのため、キャビネットのどちら側にも使用できます。

---

## ▼ 下部位置にスライドレール部品を取り付ける

1. 各スライドレール部品の調節可能な留め具の位置を調節します。
  - a. 調節可能な留め具を固定している 2 つのナットを緩めます。
  - b. 背面留め具の「SUNFIRE」と記された位置に調節可能な留め具を合わせて、ふたたび固定します。
2. 各スライドレール部品の長さを調節します。
  - a. 背面留め具を固定している 4 つのナットを緩めます。
  - b. スライドレール部品の「Sun Fire Cabinet」と記された位置に背面留め具を合わせて、ふたたび固定します。

3. 正面留め具のピンをキャビネットの 22 番と 33 番の穴に差し込みます (図 1-6)。

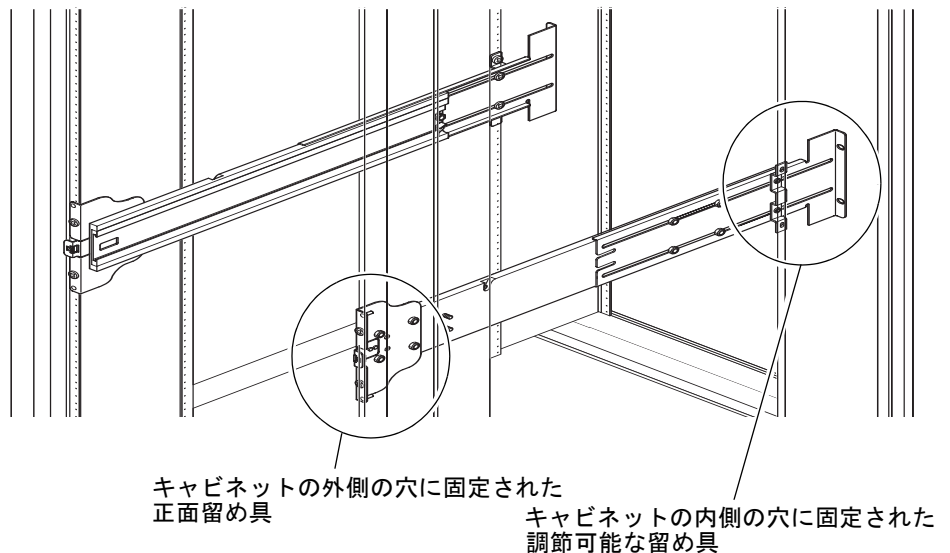


図 1-6 Sun Fire キャビネットでのスライドレールの取り付け

留め具が固定されるまで、このピンが適切な位置で留め具を支えます。

4. 2 本の No. 10-32 UNF ねじを使用して、調節可能な留め具をキャビネットの 24 番と 31 番の穴に固定します。
5. 2 本の No. 10-32 UNF ねじを使用して、正面留め具をキャビネットの 24 番と 31 番の穴に固定します。
6. 2 つめのスライドレール部品に対して、手順 1 ~ 手順 5 を繰り返します。

---

注 - キャビネットの 24 番と 31 番の穴にサーバーを取り付けると、サーバーのすぐ下に、バックプレーンを保守するための 10 インチのスペースが確保されます。

---

## ▼ 上部位置にスライドレール部品を取り付ける

1. 各スライドレール部品の調節可能な留め具の位置を調節します。
  - a. 調節可能な留め具を固定している 2 つのナットを緩めます。
  - b. 背面留め具の「SUNFIRE」と記された位置に調節可能な留め具を合わせて、ふたたび固定します。
2. 各スライドレール部品の長さを調節します。

- a. 背面留め具を固定している 4 つのナットを緩めます。
  - b. スライドレール部品の「Sun Fire Cabinet」と記された位置に背面留め具を合わせて、ふたたび固定します。
3. 正面留め具のピンをキャビネットの 58 番と 69 番の穴に差し込みます (図 1-6)。留め具が固定されるまで、このピンが適切な位置で留め具を支えます。
  4. 2 本の No. 10-32 UNF ねじを使用して、調節可能な留め具をキャビネットの 60 番と 67 番の穴に固定します。
  5. 2 本の No. 10-32 UNF ねじを使用して、正面留め具をキャビネットの 60 番と 67 番の穴に固定します。
  6. 2 つめのスライドレール部品に対して、手順 1 ~ 手順 5 を繰り返します。

## Sun Rack 900 キャビネットでのスライドレール部品の取り付け

Sun Rack 900 キャビネットの正面と背面には、下から順に番号が付いた M-6 UNF のねじ穴があります。

---

注 - レール部品は、どちらの面も同じです。そのため、キャビネットのどちら側にも使用できます。

---

1. 各レールの調節可能な留め具を取り外します。
  - a. 調節可能な留め具を固定している 2 つのナットを緩めます。
  - b. 調節可能な留め具を廃棄します。
2. 各スライドレール部品の長さを調節します。
  - a. 背面留め具を固定している 4 つのナットを緩めます。
  - b. スライドレール部品の「NGR Cabinet」と記された位置に背面留め具を合わせて、ふたたび固定します。

### ▼ 下部位置にスライドレール部品を取り付ける

1. 各レールの調節可能な留め具を取り外します。
  - a. 調節可能な留め具を固定している 2 つのナットを緩めます。
  - b. 調節可能な留め具を廃棄します。
2. 各スライドレール部品の長さを調節します。

- a. 背面留め具を固定している 4 つのナットを緩めます。
  - b. スライドレール部品の「NGR Cabinet」と記された位置に背面留め具を合わせて、ふたたび固定します。
3. 正面留め具のピンをキャビネットの 22 番と 33 番の穴に差し込みます (図 1-7)。

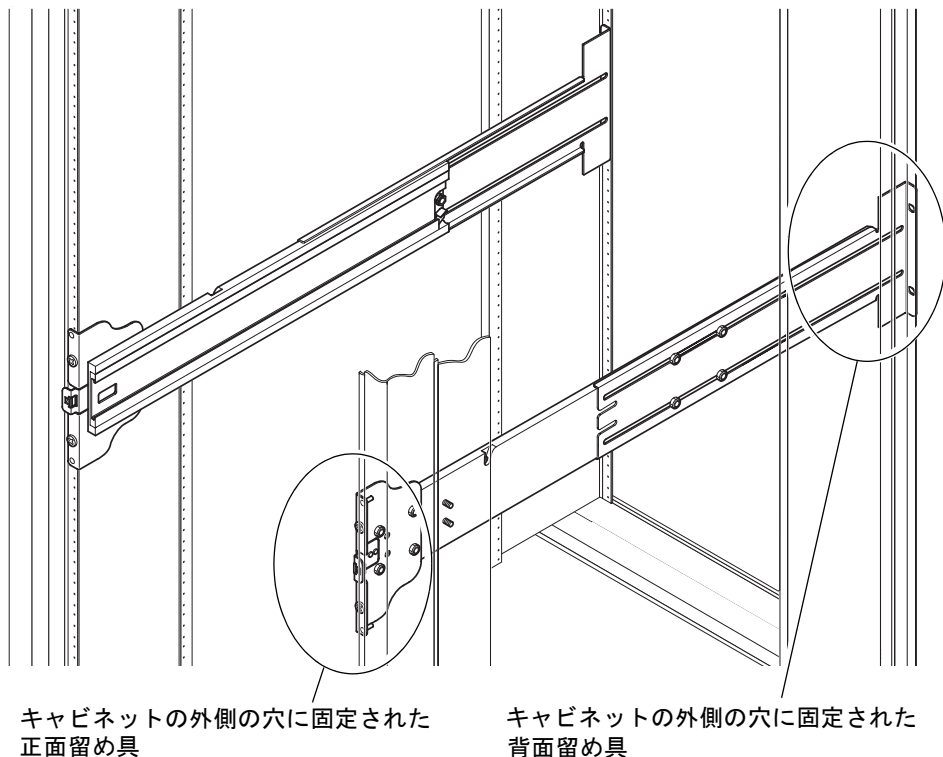


図 1-7 Sun Rack 900 キャビネットまたは 19 インチの 4 ポストキャビネットでのレールの取り付け

留め具が固定されるまで、このピンが適切な位置で留め具を支えています。

4. 2 本の M-6 UNF ねじを使用して、背面留め具をキャビネットの 24 番と 31 番の穴に固定します。
5. 2 本の M-6 UNF ねじを使用して、正面留め具をキャビネットの 24 番と 31 番の穴に固定します。
6. 2 つめのスライドレール部品に対して、手順 1 ~ 手順 5 を繰り返します。



---

注 – キャビネットの 24 番と 31 番の穴にサーバーを取り付けると、サーバーのすぐ下に、バックプレーンを保守するための 10 インチのスペースが確保されます。

---

## ▼ 上部位置にスライドレール部品を取り付ける

1. 各レールの調節可能な留め具を取り外します。
  - a. 調節可能な留め具を固定している 2 つのナットを緩めます。
  - b. 調節可能な留め具を廃棄します。
2. 各スライドレール部品の長さを調節します。
  - a. 背面留め具を固定している 4 つのナットを緩めます。
  - b. スライドレール部品の「NGR Cabinet」と記された位置に背面留め具を合わせて、ふたたび固定します。
3. 正面留め具のピンをキャビネットの 58 番と 69 番の穴に差し込みます (図 1-7)。留め具が固定されるまで、このピンが適切な位置で留め具を支えています。
4. 2 本の M-6 UNF ねじを使用して、背面留め具をキャビネットの 60 番と 67 番の穴に固定します。
5. 2 本の M-6 UNF ねじを使用して、正面留め具をキャビネットの 60 番と 67 番の穴に固定します。
6. 2 つめのスライドレール部品に対して、手順 1 ~ 手順 5 を繰り返します。

## 19 インチの 4 ポストキャビネットでのスライドレール部品の取り付け

レールは、IEC 297-4 または EIA 310-D のいずれかに準拠した 19 インチキャビネットに合うように調節できます。各スライドレール部品の正面と背面の取り付けレール間の距離は、45.0 ~ 78.0 cm (17.7 ~ 30.7 インチ) です。

---

注 – スライドレール部品は、どちらの面も同じです。そのため、キャビネットのどちら側にも使用できます。

---



---

注意 – 取り付け作業員には、キャビネットの構造的な強度および安定性が、必要な取り付け作業に対して十分であることを確認する責任があります。

---

## ▼ 19 インチの 4 ポストキャビネットにレール部品を取り付ける

1. 各スライドレール部品の調節可能な留め具を取り外します。
    - a. 調節可能な留め具を固定している 2 つのナットを緩めます。
    - b. 調節可能な留め具を廃棄します。
  2. 各スライドレール部品の長さを調節します。
    - a. 背面留め具を固定している 4 つのナットを緩めます。
    - b. スライドレール部品に記されている適切なマークに背面留め具を合わせて、ふたたび固定します。
  3. 2 本の No. 10-32 UNF ねじを使用して、背面留め具を固定します (図 1-7)。
    - もっとも低い位置にサーバーを取り付ける場合、ラック搭載用の固定ねじは、それぞれ 47.0 cm (18.5 インチ) および 57.2 cm (22.5 インチ) 以上の位置に差し込みます。
- 
- 注 – 18.5 インチおよび 22.5 インチ以上の位置に留め具を取り付けると、サーバーのすぐ下に、バックプレーンを保守するための 10 インチのスペースが確保されます。
- 
- もっとも高い位置にサーバーを取り付ける場合、ラック搭載用の固定ねじは、それぞれ 100.0 cm (39.5 インチ) および 110.0 cm (43.5 インチ) 以下の位置に差し込みます。
4. 2 本の No. 10-32 UNF ねじを使用して、正面留め具を固定します (図 1-7)。
  5. 2 つめのスライドレール部品に対して、手順 1 ~ 手順 4 を繰り返します。

## 19 インチの 2 ポストラックでのレール部品の取り付け

---

注 – スライドレール部品の準備を行なってください。詳細は、8 ページの「2 ポストへの取り付け用にレールを準備する」を参照してください。

---

---

注 – スライドレール部品は、どちらの面も同じです。そのため、キャビネットのどちら側にも使用できます。

---



---

**注意** – ラックが床、天井、または隣接するフレームに固定されていることを確認してください。取り付け作業員には、キャビネットの構造的な強度および安定性が、必要な取り付け作業に対して十分であることを確認する責任があります。

---

## ▼ 19 インチの 2 ポストラックにスライドレール部品を取り付ける

1. 2 本の No. 10-32 UNF ねじを使用して、正面留め具を固定します。  
ラック搭載用の固定ねじは、それぞれ 47.0 cm (18.5 インチ) および 57.2 cm (22.5 インチ) 以上の位置に差し込みます。

---

**注** – 18.5 インチおよび 22.5 インチ以上の位置に留め具を取り付けると、サーバーのすぐ下に、バックプレーンを保守するための 10 インチのスペースが確保されます。

---

2. 2 本の No. 10-32 UNF ねじを使用して、背面留め具を固定します。
3. 2 つめのスライドレール部品に対して、手順 1 および手順 2 を繰り返します。

---

## キャビネットへのサーバーの設置

この節では、次の項目について説明します。

- 15 ページの「キャビネットへのサーバー設置の準備をする」
- 17 ページの「キャビネットにサーバーを搭載する」

## ▼ キャビネットへのサーバー設置の準備をする

1. 正面ベゼルのドアを取り外します (図 1-8)。
  - a. ドアを開け、ヒンジピンのレバーを押し下げてヒンジピンを緩めます。
  - b. ドアを持ち上げてヒンジピンを外し、安全な場所にドアを保管します。

c. 2 つめの正面ベゼルのドアに対して、手順 a および手順 b を繰り返します。

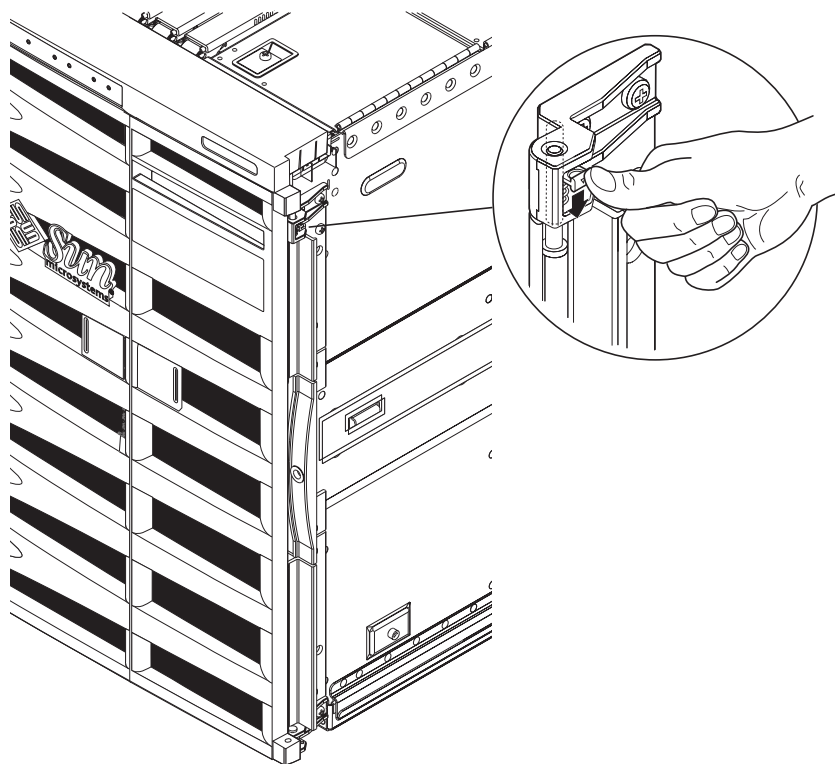


図 1-8 ドアのヒンジ機構の取り外し

2. 架台のボルトを取り外します (図 1-9)。

ボルトは、金属のオレンジ色の架台を木製パレットに固定しています。

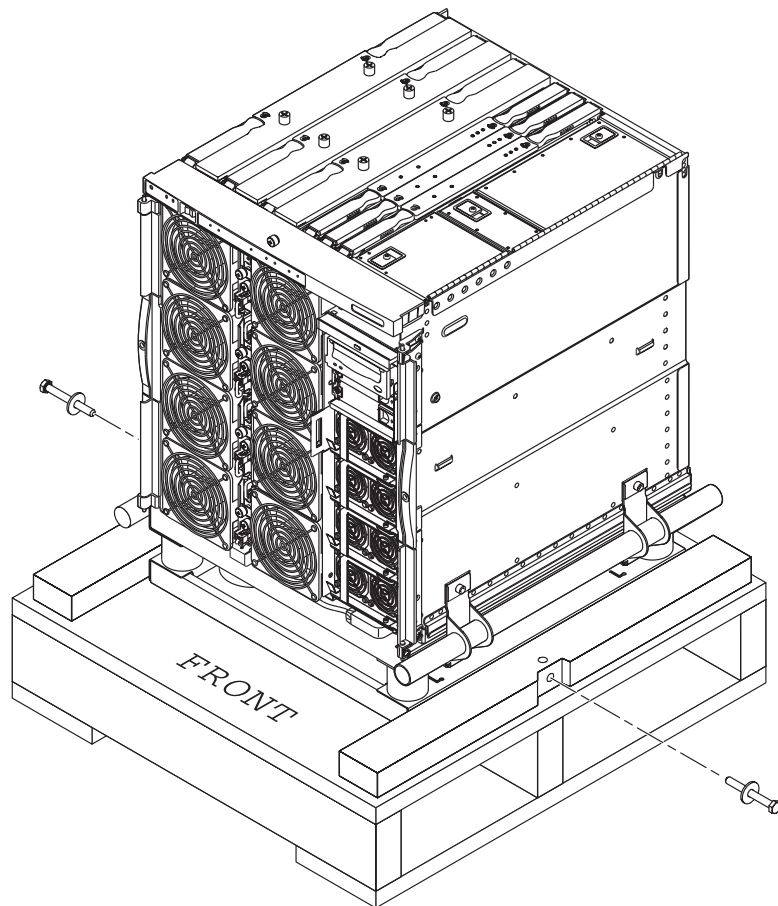


図 1-9 架台のボルトの取り外し

## ▼ キャビネットにサーバーを搭載する



**注意** – 架台を含む Netra 1290 サーバーの重量は、約 130.0 kg (286.0 ポンド) です。サーバーをキャビネット内に安全に移動するには、怪我をしないように、コンピュータのリフティングデバイスを使用して 2 人で作業する必要があります。

1. キャビネットの安定装置が取り付けられている場合はこれを伸ばし、適切な位置で固定します。



**注意** – サーバーを持ち上げる場合は、架台を取り付けてください。架台を取り付けずに持ち上げると、サーバーに大きな損傷を与えることになります。

2. リフティングデバイスのフォークを架台の開口部に完全に差し込みます (図 1-10)。

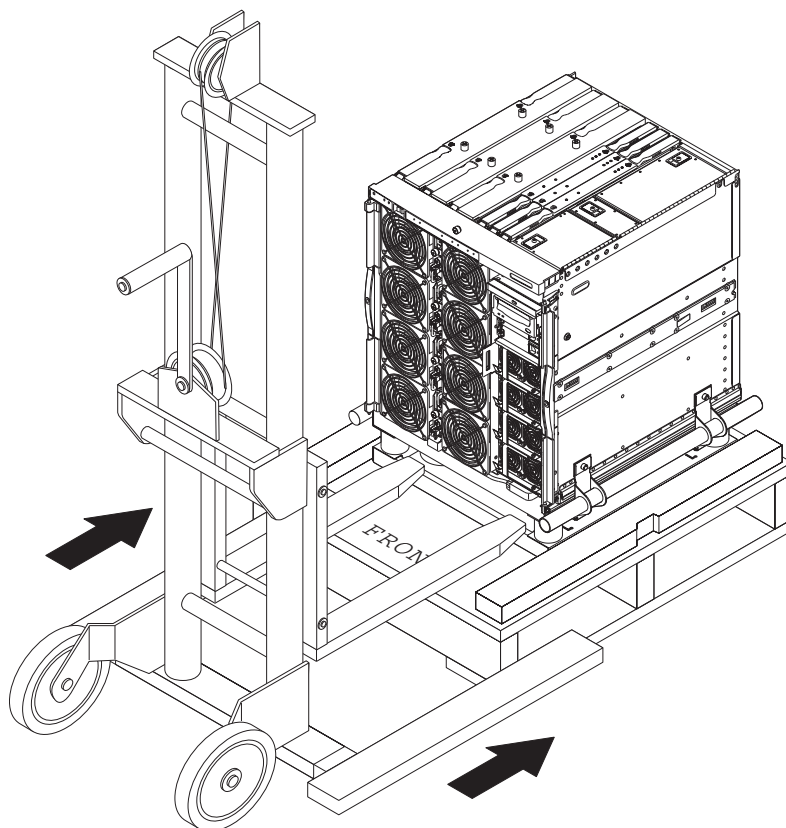


図 1-10 架台へのリフティングデバイスの挿入

3. サーバーを木製の出荷用パレットから持ち上げて、パレットを取り外します。
4. キャビネットから外部レールを引き出し、伸ばした位置でラッチを固定します。
5. キャビネットの外部レールの高さまでサーバーを持ち上げます。
6. サーバーのレールがキャビネットの外部レールに完全にかみ合うまで、リフティングデバイスを前方に注意深く移動させます (図 1-11)。

各側面のラッチがカチッという音を立てて、レールがロックされるようにしてください。

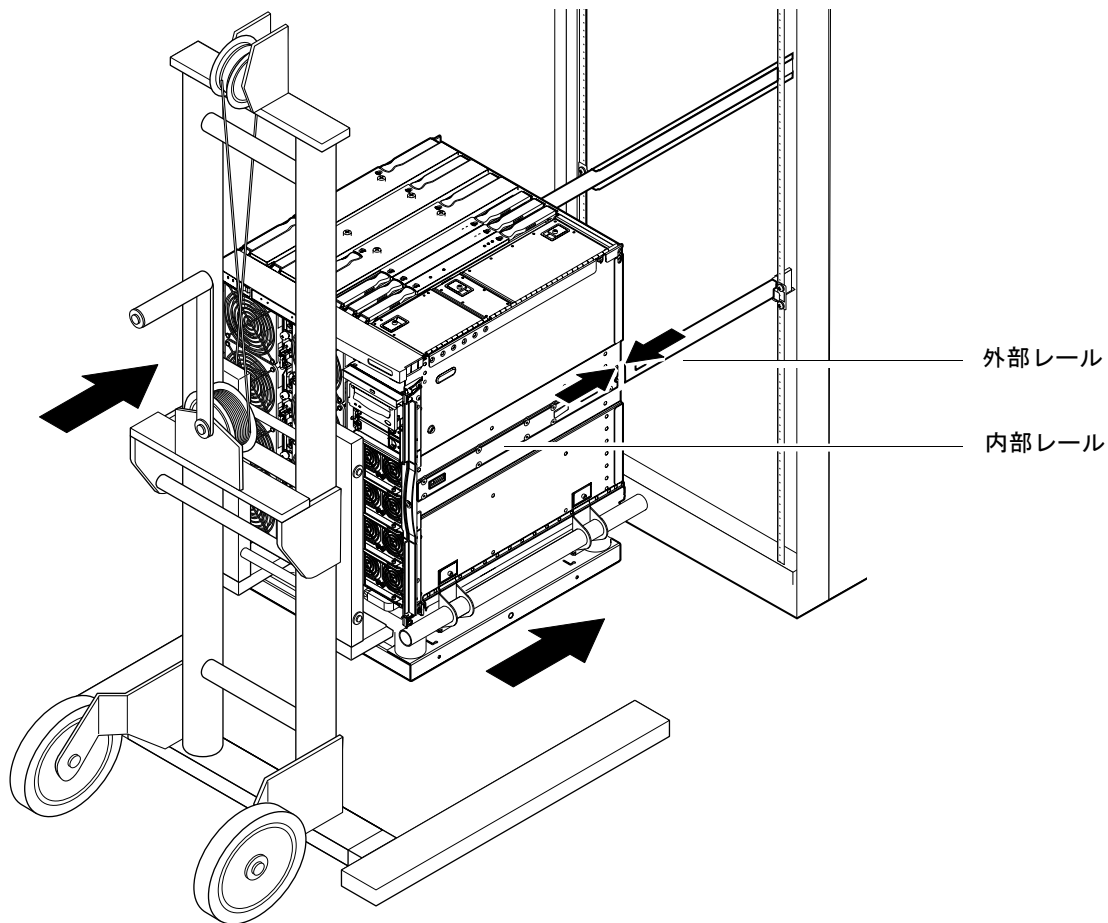


図 1-11 レールの位置合わせ



**注意** – キャビネットの安定装置が取り付けられている場合は、これを伸ばしてください。安定装置を伸ばさないと、リフティングデバイスを引き出す際にキャビネットが転倒することがあります。

7. リフティングデバイスでサーバーを支えたままの状態、サーバーに架台のハンドルを固定している 4 本の脱落防止機構付きねじを緩めます。
8. 架台にハンドルを固定している 4 本の脱落防止機構付きねじを緩めます。
9. 架台の両方のハンドルを引いてサーバーから外します。  
これで、架台がサーバーから取り外されます。
10. リフティングデバイスを使用して、作業の妨げにならない場所に架台を降ろします ( 図 1-12)。  
架台は、将来の使用のために保管しておきます。

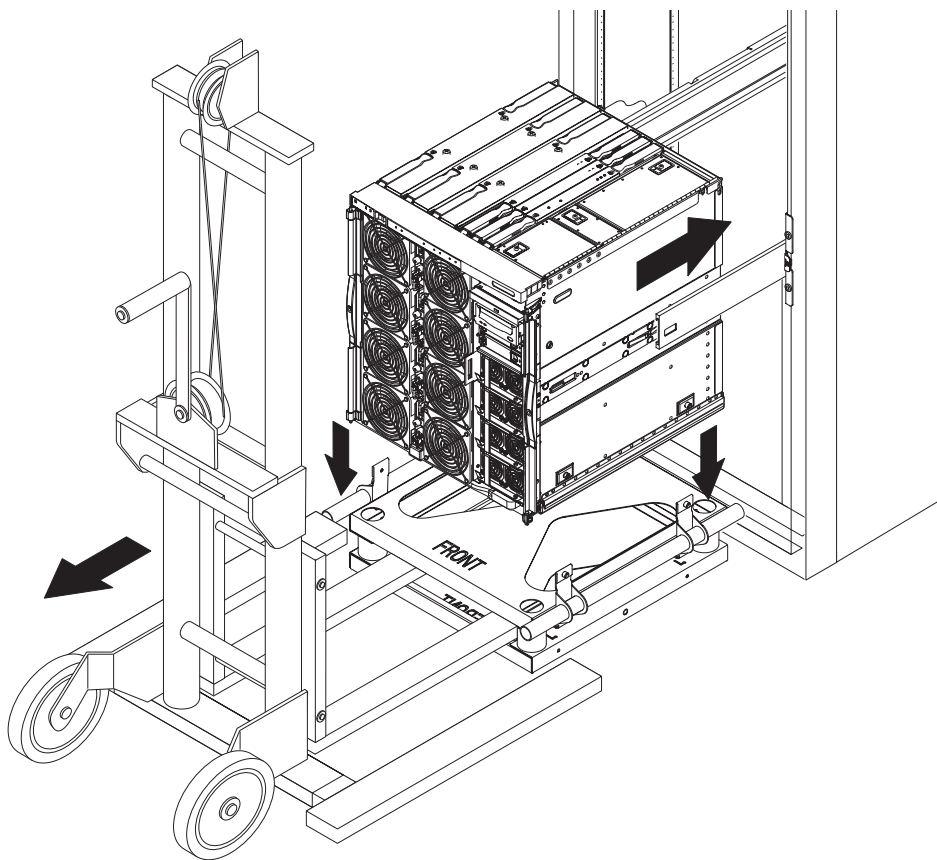


図 1-12 架台の取り外し



11. 各レールの緑色のラッチを押して、サーバーをキャビネットの中へ押し込みます (図 1-13)。

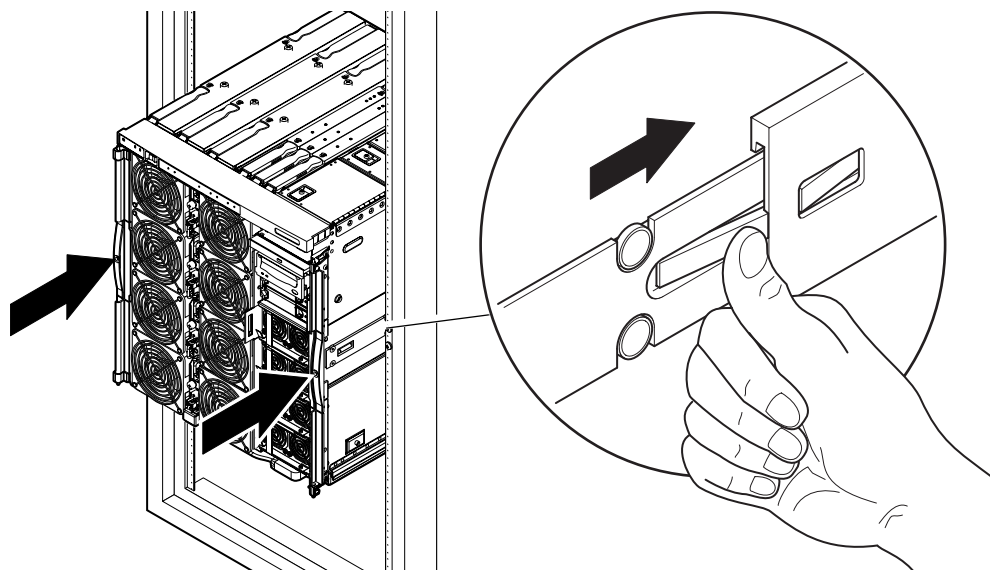


図 1-13 システムキャビネットへのサーバーの押し込み

12. サーバーの正面にある 2 本の固定ねじを締め付けて、サーバーをキャビネットに固定します (図 1-14)。

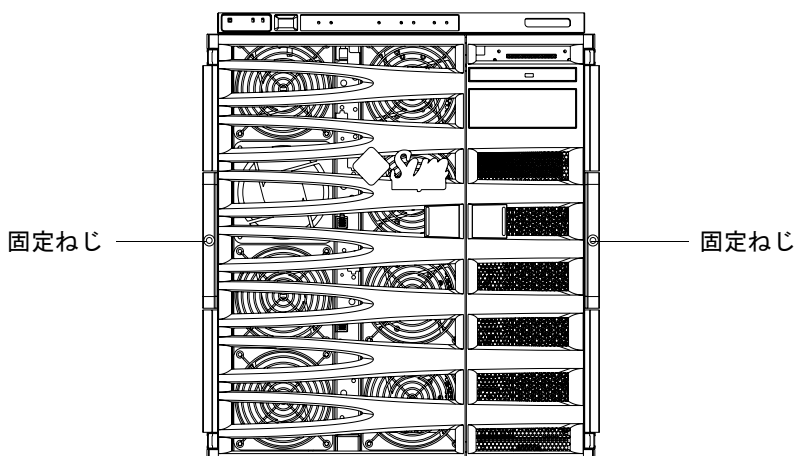


図 1-14 固定ねじの締め付け

13. キャビネットの安定装置を使用した場合は、これを元の位置に戻します。

14. サーバーの正面ドアをふたたび取り付けます。

---

## スライドレールのロックナットの取り付け

---

注 – キャビネットに設置された状態で工場から出荷されるすべての装置には、スライドレールのロックナットがあらかじめ取り付けられています。

---

キャビネットにあらかじめ設置されていない状態で出荷されたサーバーの場合は、ロックナット、スペーサ、およびレールが含まれたスライドレールマウントキットを使用して、サーバーをキャビネットに取り付けて固定します。詳細は、4 ページの「スライドレールの取り付け」を参照してください。いったんロックナットをサーバーに取り付けると、次の事項が適用されます。

- サーバーをキャビネットから取り外すには、ロックナットを緩めてください。
- 1 台以上のサーバーが設置されたキャビネットを移動する際は、事前に各サーバーのロックナットをしっかりと締め付けてください。

次の手順に進んで、スライドレールのロックナットを取り付けます。

---

注 – スライドレールマウントキットには、レールと一緒にメーカーから提供される 1 組のスペーサが含まれています。メーカーのスペーサを廃棄して、キットに含まれる Sun のスペーサを代わりに使用する必要があります。

---

### ▼ ロックナットを取り付ける

1. 必要に応じて、キャビネットの安定装置を伸ばします。
2. サーバーをスライドさせて、システムキャビネットから引き出します。
3. レールと一緒にメーカーから提供されたスペーサをキットから取り出し、廃棄します。
4. サーバーの背面から、Sun 提供のスペーサを各レールの止め金具に挿入して締め付けます (図 1-15)。  
スペーサの段の部分必ず外側に向ける必要があります。

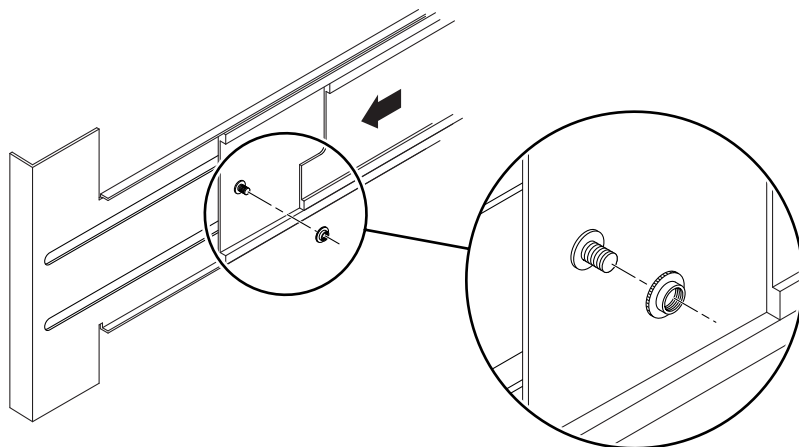


図 1-15 スペーサの挿入および締め付け

5. サーバーをスライドさせてシステムキャビネットに入れます。
6. サーバーの背面から、レールごとに1つのロックナットを挿入して締め付けます (図 1-16)。

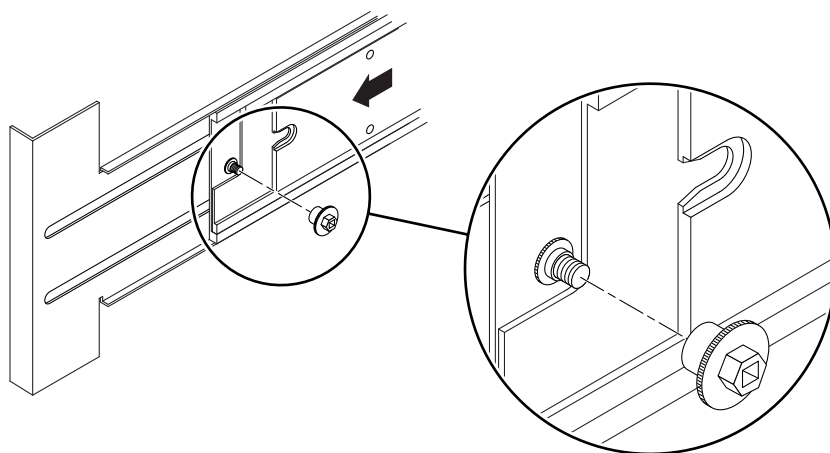


図 1-16 ロックナットの挿入および締め付け

7. システムキャビネット内の各サーバーに対して、手順 1 ~ 手順 6 を繰り返します。
8. キャビネットの安定装置を使用した場合は、これを元の位置に戻します。

## ケーブル管理アームの取り付け

この節では、次の項目について説明します。

- 25 ページの「CMA-Lite を取り付ける」
- 26 ページの「CMA-800 を取り付ける」

ケーブル管理アーム (CMA) は、サーバーをスライドさせてキャビネットから出し入れする場合に、ケーブルを支えて保護します。

2つのケーブル管理アームソリューションとして、CMA-Lite および CMA-800 が提供されています。どちらの CMA を選択するかは、キャビネットの使用可能な奥行およびサポートされるケーブルの本数と種類に依存します。大きい方のケーブル管理アーム CMA-800 が使用しているキャビネットに合わない場合は、CMA-Lite を使用してください。

サーバーの背面には、CMA を取り付けるためのねじ穴があります (図 1-17)。

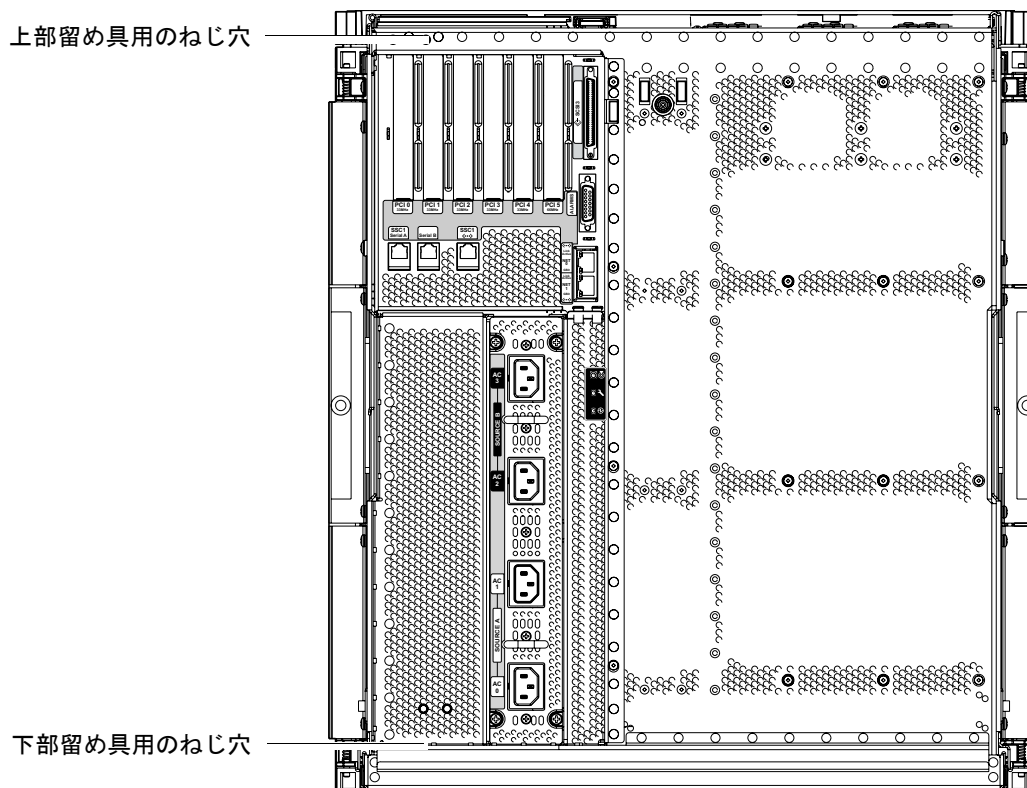


図 1-17 CMA 留め具の取り付け用ねじ穴

## ▼ CMA-Lite を取り付ける

1. 2本の脱落防止機構付きねじを使用して、上のアームの先端にあるピボットを、サーバーの背面の上部に固定します (図 1-18)。
2. 2本の脱落防止機構付きねじを使用して、CMA の中央のピボットを、左側のスライドレール部品の背面の内側に固定します。
3. 2本の脱落防止機構付きねじを使用して、下のアームの先端にあるピボットを、サーバーの背面の下部に固定します。

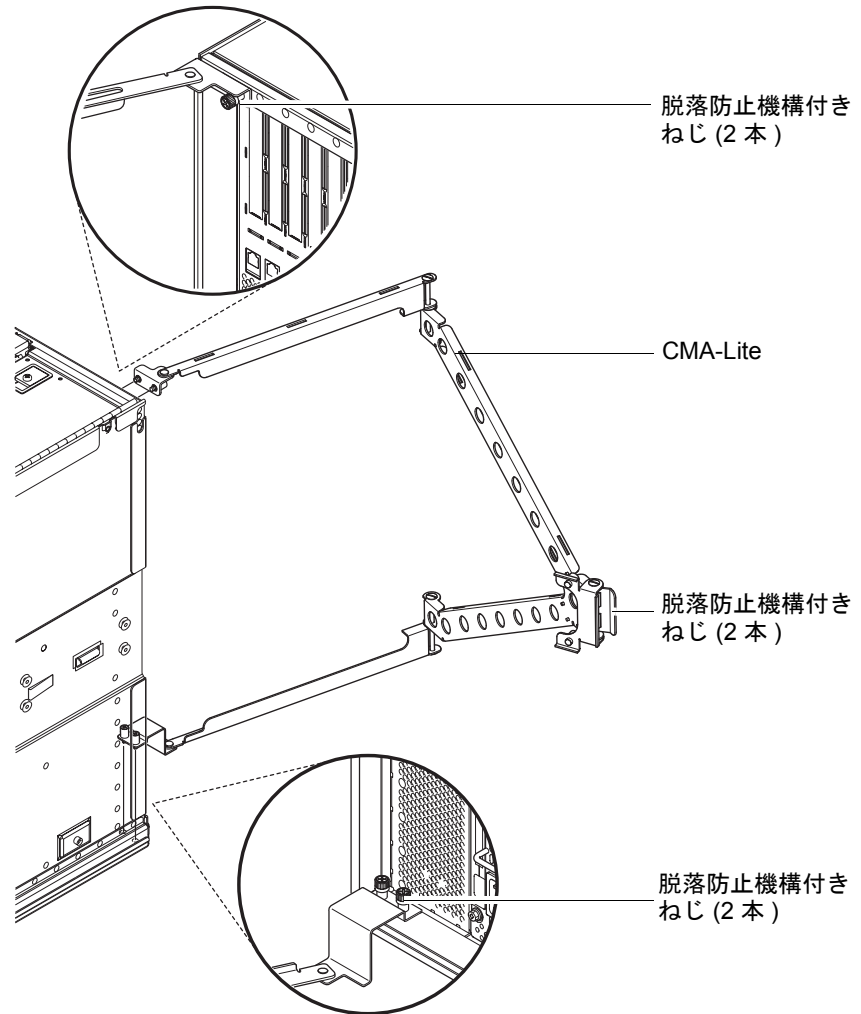


図 1-18 CMA-Lite ケーブル管理アーム

## ▼ CMA-800 を取り付ける

図 1-19 を参照して、手順全体で使用する CMA 部品を確認します。

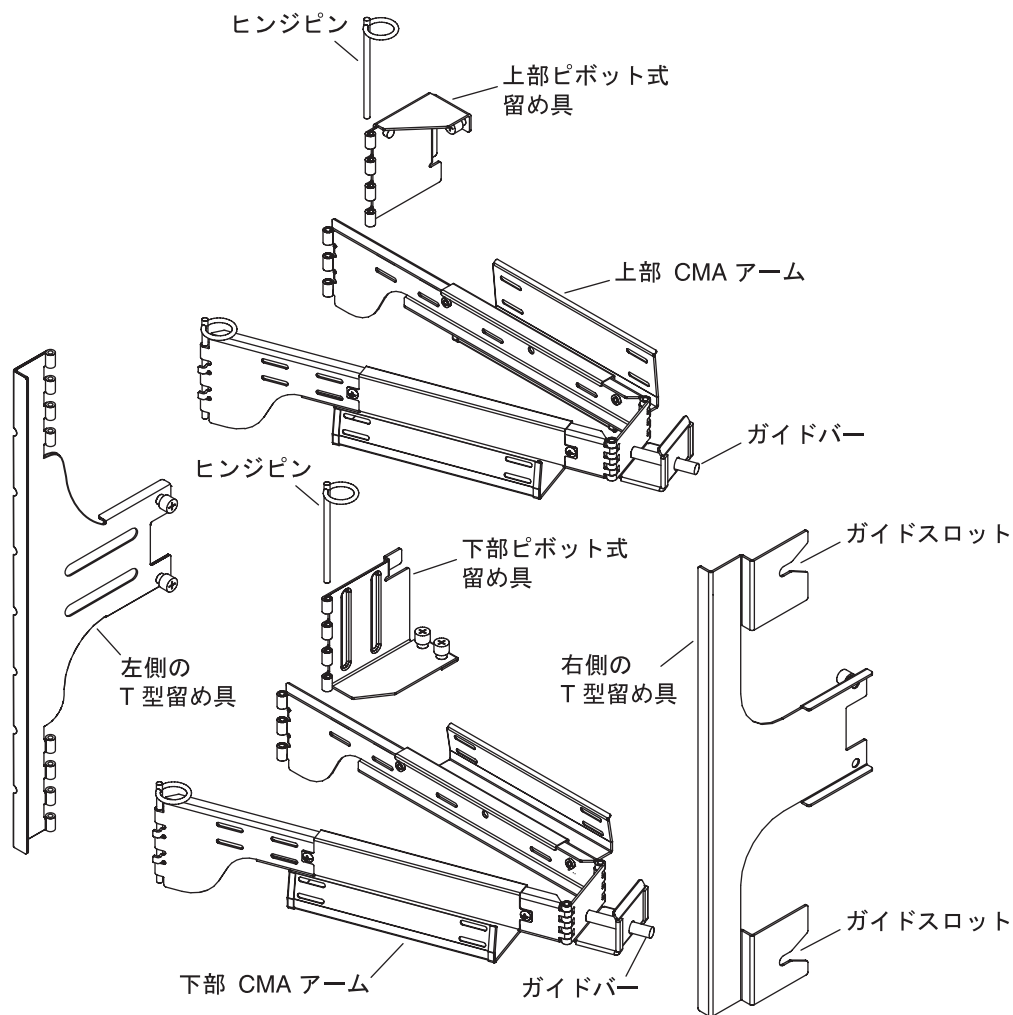


図 1-19 上部および下部の CMA アームと左側および右側の T 型留め具

注 - 以降の手順での左右の方向は、すべてサーバーシャーシを背面から見た場合の方向です。

1. ピボット式留め具を上部 CMA アームに固定しているヒンジピンを取り外します。これによって、サーバーシャーシへの留め具の取り付けが容易になります。
2. 2本の脱落防止機構付きねじを使用して、ピボット式留め具をサーバーシャーシの左側上部に固定します。図 1-20 および図 1-21 を参照してください。

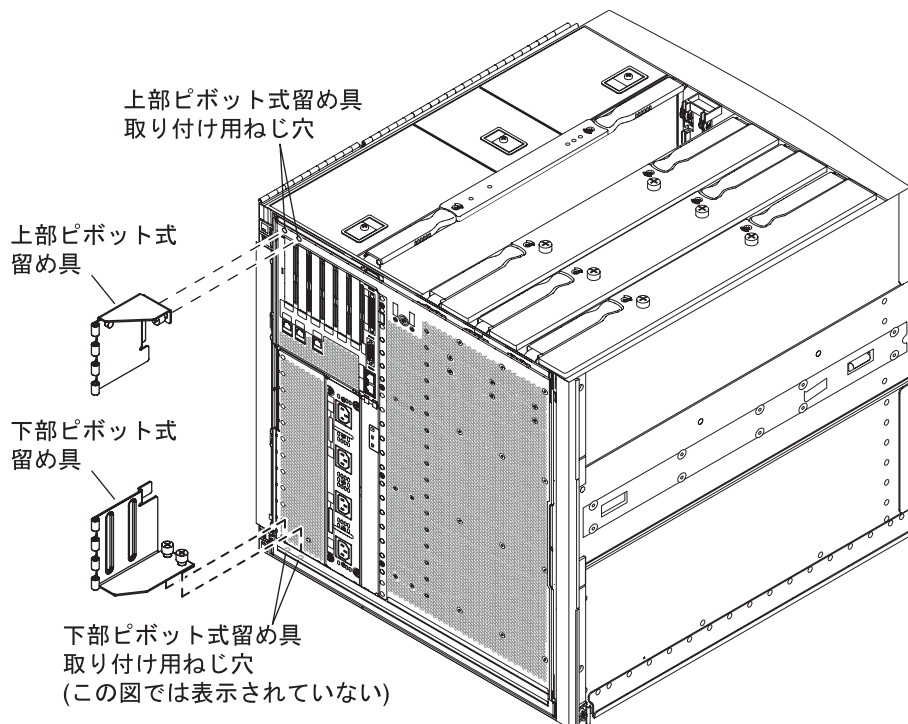


図 1-20 上部および下部のピボット式留め具の取り付け用ねじ穴

ピボット式留め具をシャーシに取り付けてから、前の手順で取り外したヒンジピンを使用して、ピボット式留め具を上部 CMA アームに固定します。

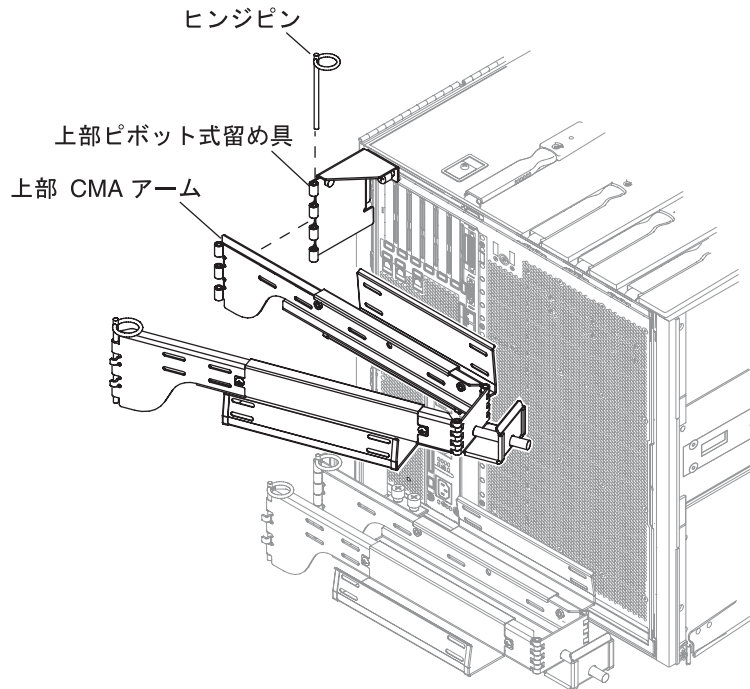


図 1-21 上部の CMA アームおよびピボット式留め具の取り付け

3. ピボット式留め具を下部 CMA アームに固定しているヒンジピンを取り外します。これによって、サーバーシャーシへの留め具の取り付けが容易になります。
4. 2本の脱落防止機構付きねじを使用して、ピボット式留め具をサーバーシャーシの左側下部に固定します。図 1-20 および図 1-22 を参照してください。



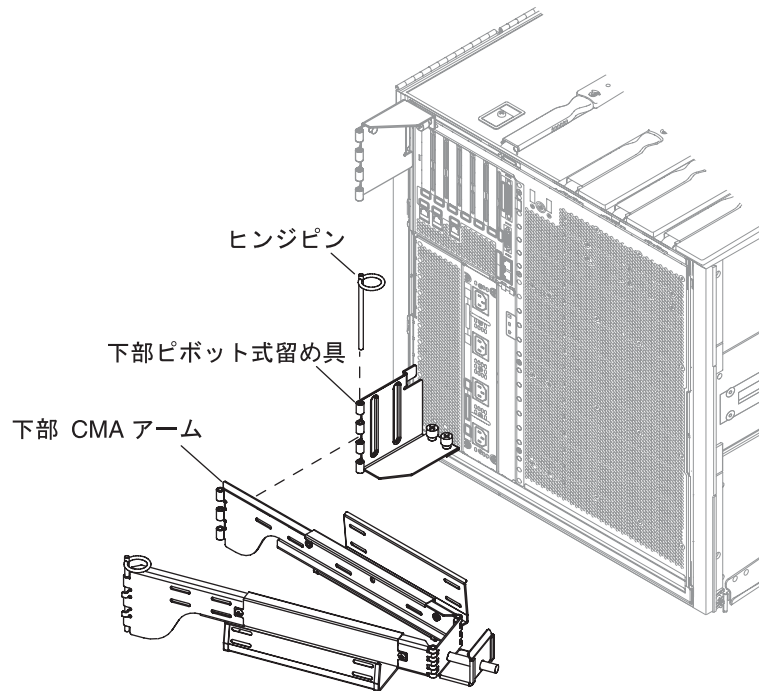


図 1-22 下部の CMA アームおよびピボット式留め具の取り付け

5. 留め具をシャーシに取り付けてから、前の手順で取り外したヒンジピンを使用して、下部 CMA アームを留め具に固定します。
6. 2本の脱落防止機構付きねじを使用して、左側の T 型留め具を左側のスライドレールに固定します (図 1-23)。

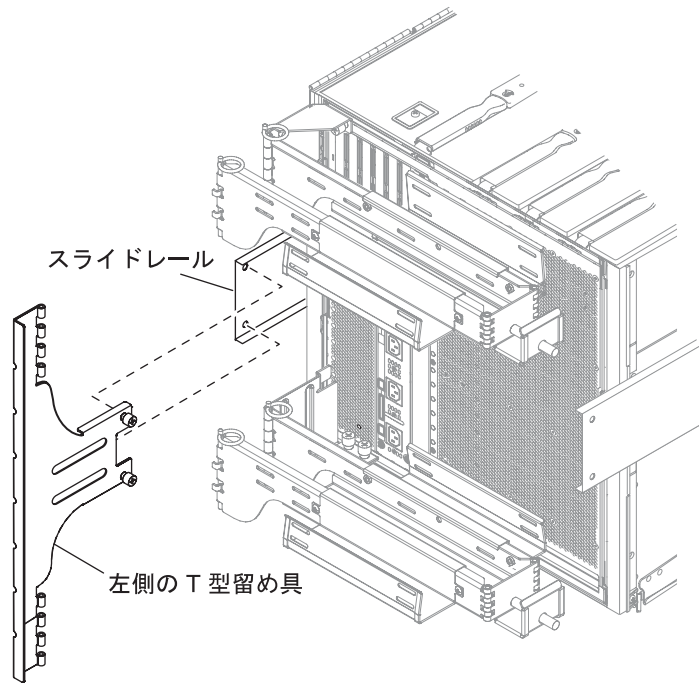


図 1-23 左側の T 型留め具の取り付け

7. 2 本の脱落防止機構付きねじを使用して、右側の T 型留め具を右側のスライドレールに固定します (図 1-24)。

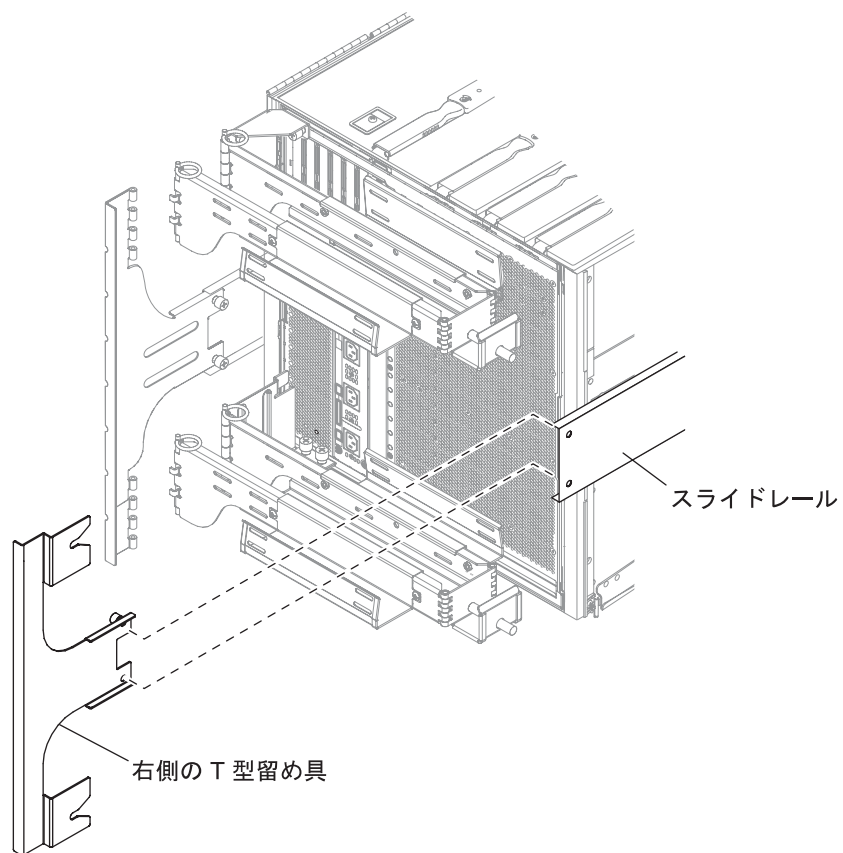


図 1-24 右側の T 型留め具の取り付け

8. ヒンジピンを 1 つ使用して、上部 CMA アームを左側の T 型留め具に固定します (図 1-25)。

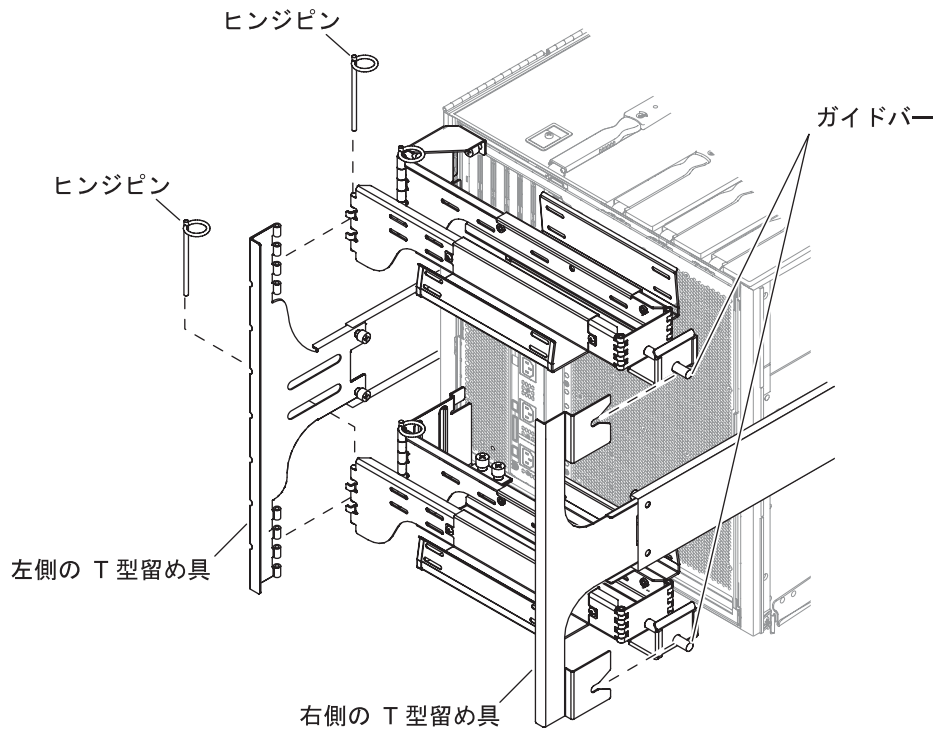


図 1-25 上部および下部の CMA アームの T 型留め具への取り付け

9. ヒンジピンを 1 つ使用して、下部 CMA アームを左側の T 型留め具に固定します (図 1-25)。
10. 必要に応じて、ケーブル用の溝にケーブルを通して配線します。
11. 上部および下部の CMA アームのそれぞれのガイドバーを右側の T 型留め具の溝に挿入して、両方の CMA アームを固定します。

---

## 電源ケーブルの接続

---



**注意** – Netra 1290 サーバーは、アースされた中性線を持つ電源システムを使用して動作するように設計されています。装置をほかの種類電源システムに接続しないでください。建物に供給されている電力の種類を確認するには、施設の管理者または有資格の技術者に問い合わせてください。

---



**注意** – Netra 1290 サーバーには、アースタイプ (3 極) の電源コードが付属していません。電源コードは、アースしたコンセントに接続してください。

---



**注意** – 電源コンセントは、装置の近くの容易に使用できる場所にある必要があります。

---

### ▼ 電源ケーブルを接続する

1. システムの電源スイッチをスタンバイの位置に設定します。



**注意** – オン/スタンバイ電源スイッチでは、装置の電源は完全には切断されません。この製品の電源を切断する主な手段は、電源コードを抜くことです。

---

2. 電源付きキャビネットを使用している場合は、キャビネットの電源を切ります。  
詳細は、キャビネットに付属の設置マニュアルを参照してください。
3. 4 本の電源コードの両端にラベルを付けます。  
2 本の電源コードに「電源 A」、残りの 2 本の電源コードに「電源 B」というラベルを付けます。
4. 電源ケーブルをサーバーに接続します。
  - a. 電源 A の電源コードをサーバーの AC0/DC0 および AC1/DC1 に接続し、電源 B の電源コードをサーバーの AC2/DC2 および AC3/DC3 に接続します。
  - b. 電源コードを CMA に通し、タイラップで固定します。  
CMA を伸ばしたり元に戻したりしても、電源コードが外れないことを確認してください。
5. サーバーを電源に接続します。

---

注 – 取り付け作業員には、キャビネットの電力および冗長性が、必要な取り付け装置に対して十分であることを確認する責任があります。

---

- 電源が付いていないキャビネットにサーバーが取り付けられている場合、次の手順に従います。
  - a. サーバーの電源 A の電源コードを、別途用意した電源 A の回路遮断器に接続します。
  - b. サーバーの電源 B の電源コードを、別途用意した電源 B の回路遮断器に接続します。
- 電源付きのキャビネットにサーバーが取り付けられている場合、次の手順に従います。
  - a. キャビネットの電源 A の電源コードを、別途用意した電源 A の回路遮断器に接続し、キャビネットの電源 B の電源コードを、別途用意した電源 B の回路遮断器に接続します。

キャビネットでの電源ケーブルの配線については、キャビネットに付属の設置マニュアルを参照してください。
  - b. キャビネットの電源 A の電源コードをサーバーの電源 A に接続し、キャビネットの電源 B の電源コードをサーバーの電源 B に接続します。

キャビネットでの電源ケーブルの配線については、キャビネットに付属の設置マニュアルを参照してください。

---

## システムコントローラへのコンソールの接続

この節では、次の項目について説明します。

- 35 ページの「はじめて管理コンソールを接続する」
- 36 ページの「管理コンソールを接続する」

システムコントローラ (SC) は、電源投入シーケンス、モジュールの電源投入時自己診断 (POST) の実行、環境監視、障害の表示、アラームなどの Lights Out Management (LOM) 機能を提供します。

シリアルポート A または 10/100BASE-T LOM Ethernet ポートのいずれかに管理コンソールを接続すると、LOM コマンド行インタフェース、Solaris コンソール、および OpenBoot™ PROM コンソールにアクセスできます。いずれかのポートに接続された任意の外部入力デバイス (ラップトップコンピュータやワークステーション) を管理コンソールとして使用できます。

LOM シリアルポート A は、コマンド行インタフェースを使用して、ASCII 端末またはネットワーク端末サーバー (NTS) へ直接接続します。管理コンソールの初期設定では、このポートを使用します。10/100BASE-T LOM Ethernet ポートを管理コンソールとして使用できるように、デフォルトの SC の設定を変更する場合は、このポートを使用します。シリアルポート A の設定は変更できません。シリアルポートの詳細は、付録 A を参照してください。

10/100BASE-T LOM Ethernet ポートは、システムコントローラをネットワークに接続する場合に使用します。このポートは、あらかじめ次のように設定されています。

- SC はネットワーク設定されている
- SC Ethernet は DHCP 用に設定されている
- システムコントローラ Ethernet の IP アドレス、ゲートウェイ、ドメインネームサービス (DNS) ドメイン、および DNS サーバーは事前設定されていない

## ▼ はじめて管理コンソールを接続する

初期構成では、LOM シリアルポート A を次のいずれかのデバイスのシリアルポートに接続してください。

- ASCII 端末
- Sun のワークステーション
- 端末サーバー (または端末サーバーに接続されたパッチパネル)

---

**注** – DHCP によって 10/100BASE-T LOM Ethernet ポートに割り当てられた IP アドレスがわかっている場合は、LOM シリアルポート A がなくても 10/100BASE-T LOM Ethernet ポートにアクセスできます。

---

### 1. 管理コンソールを LOM シリアルポート A に接続します (図 1-26)。

LOM シリアルポート A は、DTE (データ端末装置) ポートです。LOM シリアルポート A をほかの DTE ポートに接続するには、アダプタ、クロスケーブル、またはヌルモデムケーブルが必要です。LOM シリアルポート A のコネクタのピン配列およびアダプタについては、59 ページの「LOM シリアルポート A およびシリアルポート B」を参照してください。

### 2. 別途用意した回路遮断器の電源スイッチをオンの位置に設定します。

### 3. システムの電源スイッチをオンの位置に設定します。

『Netra 1290 サーバーシステム管理マニュアル』(819-6907) を参照してください。

### 4. システムコンソールを設定します。

『Netra 1290 サーバーシステム管理マニュアル』(819-6907) を参照してください。

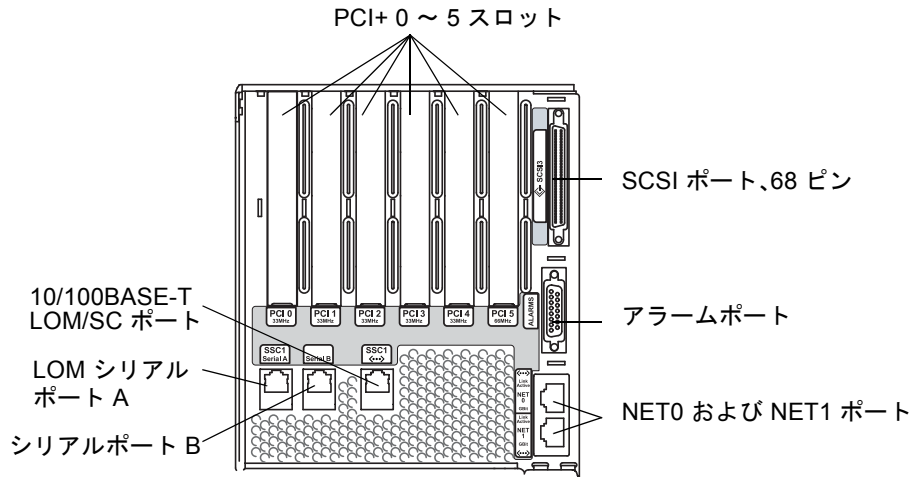


図 1-26 システムコントローラおよび I/O アセンブリの位置

## ▼ 管理コンソールを接続する

初期設定が完了すると、10/100BASE-T LOM Ethernet ポートを使用して、直接またはネットワークを介してシステム管理作業を行うことができます。

---

注 – LOM シリアルポート A での通信は可能ですが、LOM デバイスによる割り込みの影響を受ける可能性があります。『Netra 1290 サーバースystem管理マニュアル』(819-6907) を参照してください。

---

1. 10/100BASE-T LOM Ethernet ポートを、選択した管理コンソール (ローカルのハブ、ルーター、またはスイッチ) に接続します (図 1-26)。

10/100BASE-T LOM Ethernet ポートのコネクタに関する情報は、58 ページの「10/100BASE-T LOM Ethernet ポート」を参照してください。

2. 選択した管理コンソールを設定します。

『Netra 1290 サーバースystem管理マニュアル』(819-6907) を参照してください。



---

## I/O アセンブリの接続

I/O アセンブリによって、システムドメインに対しネットワークインタフェースおよび周辺装置へのアクセスが提供されます。

### ▼ I/O アセンブリを接続する

1. I/O Ethernet ケーブルの一方の端を NET0/NET1 Ethernet ポートに接続します (図 1-26)。
2. I/O Ethernet ケーブルのもう一方の端をハブ、ワークステーション、または周辺装置に接続します。

---

## 追加ハードウェアの取り付け

出荷時の初期構成の設置が完了し、サーバーに電源が投入され、POST が正常に終了するまで、追加のハードウェアを取り付けしないでください。こうすることで、ハードウェアの追加によって引き起こされる問題の診断が容易になります。



---

**注意** – CPU/メモリーボードを取り付ける際には、『Netra 1290 Server Service Manual』(819-4373)を参照して、ボードの損傷を防止してください。

---



---

**注意** – 初期設置の作業時は、サーバーハードウェアの取り外しまたは交換の前に、回路遮断器で電源を切ってください。詳細は、追加ハードウェアの設置マニュアルを参照してください。

---



---

**注意** – 最適なパフォーマンスを得るために、Sun によって Netra 1290 サーバーでの使用が認定されている I/O カードおよび関連ドライバのみを使用してください。カードとドライバのソリューションが Sun に認定されたものでない場合、特定のバス上でカードとドライバ間に相互作用が発生し、システムパニックやその他の良くない結果につながる可能性があります。

認定された I/O カードのリストおよびサーバーの構成に関する最新情報については、ご購入先にお問い合わせください。詳細は、次の Web サイトを参照してください。

い。

<http://www.sun.com/io>

---

## 追加の周辺装置の取り付け

ストレージデバイスを追加する場合は、<http://docs.sun.com> の『Rackmount Placement Matrix』を参照してください。Sun のディスクアレイ、その他のストレージトレイ、およびデバイスに使用する取り付け用ねじ穴の番号が記載されています。

『Rackmount Placement Matrix』に指定されていないかぎり、もっとも重い構成部品は使用可能な一番下のスペースに取り付けてください。このように配置することによって、地震が発生した場合に、システム上部の重みによる影響が最小限に抑えられます。

詳細は、周辺装置の設置マニュアルを参照してください。

## 第2章

---

# 設定

---

この章では、システムコントローラのコマンド行インタフェース (LOM プロンプト) を使用してサーバーに電源を入れる方法、`setupnetwork` コマンドを使用して SC を設定する方法、および Solaris オペレーティングシステムの起動方法について説明します。

この章の内容は、次のとおりです。

- 39 ページの「設定プロセス」
- 40 ページの「ハードウェアの設定」
- 40 ページの「オン/スタンバイスイッチ」
- 41 ページの「サーバーの電源投入」
- 42 ページの「サーバーのスタンバイモードへの切り替え」
- 44 ページの「サーバーの設定」
- 46 ページの「Solaris オペレーティングシステムのインストールおよび起動」
- 48 ページの「Lights Out Management パッケージのインストール」

---

## 設定プロセス

サーバーの電源投入と設定を行うために実行する必要がある主な手順は、次のとおりです。

1. ハードウェアを取り付けて配線します。
2. ハードウェアに外部電力を供給します。
3. システムの日付と時刻を設定します。
4. SC のパスワードを設定します。
5. `setupnetwork` コマンドを使用して、システム固有のパラメータを設定します。
6. `poweron` コマンドを使用して、すべてのハードウェアの電源を入れます。

7. Solaris オペレーティングシステムがプリインストールされていない場合、これをインストールします。
8. Solaris オペレーティングシステムを起動します。
9. Sun のソフトウェアダウンロードセンターからダウンロードした Lights Out Management パッケージをインストールします。

---

## ハードウェアの設定

### ▼ ハードウェアを取り付けて配線する

1. システムコントローラボードのシリアルポートに端末を接続します (図 1-26)。
2. SC のシリアルポートと同じボーレートを使用するように端末を設定します。  
システムコントローラボードのシリアルポートの設定は、次のとおりです。
  - 9600 ボー
  - 8 データビット
  - パリティなし
  - 1 ストップビット

---

## オン/スタンバイスイッチ

オン/スタンバイスイッチは、「オン」と「スタンバイ」の2つの位置があるロツカースイッチです。図 2-1 に、このスイッチとその位置を示します。



図 2-1 Netra 1290 サーバーのオン/スタンバイスイッチ

## オン/スタンバイスイッチの動作の無効化

- オン/スタンバイスイッチを無効にするには、`setupsc` コマンドを使用します。

```
lom>setupsc

System Controller Configuration
-----
SC POST diag Level [off]:
Host Watchdog [enabled]:
Rocker Switch [enabled]:disabled
Secure Mode [off]:
```

---

## サーバーの電源投入

すべての電源ケーブルを接続し、外部の回路遮断器のスイッチをオンにすると、サーバーがスタンバイモードに切り替わります。システムインジケータボードで点灯しているインジケータ LED は、電源 A と電源 B のインジケータのみになります。IB\_SSC アセンブリのアクティブ LED が点灯していますが、サーバーの正面からは見えません。

スタンバイモードからのサーバーの電源投入は、次の 2 つの方法のいずれかで行うことができます。

- オン/スタンバイスイッチの操作
- LOM ポート経由での `poweron` コマンドの送信

Netra 1290 サーバーのオン/スタンバイスイッチは、低電圧信号だけを制御します。高電圧回路はこのスイッチでは制御されません。

---

注 – 電源スイッチはオン/オフスイッチではなく、オン/スタンバイスイッチです。このスイッチでは、装置の電源は完全には切断されません。

---

OpenBoot PROM で `auto-boot?` 変数が `true` に設定されている場合は、サーバーに電源を入れると Solaris オペレーティングシステムが自動的に起動します。

### ▼ オン/スタンバイスイッチを使用して電源を入れる

1. サーバーに電力が供給されており、サーバーが正常にスタンバイモードになっていることを確認します。

2. オン/スタンバイスイッチの右側を瞬間的に押します。

サーバーに完全に電源が入ります。システムアクティブインジケータが点灯し、サーバーによって電源投入時自己診断 (POST) が実行されます。

## ▼ LOM の poweron コマンドを使用して電源を入れる

- lom> プロンプトで、次のように入力します。

```
lom>poweron
```

SC は最初すべての電源装置の電源を入れてから、続けてファントレーの電源を入れます。最後に、SC はシステムボードの電源を入れます。OpenBoot PROM 変数 auto-boot? が true の場合は、その後、Solaris オペレーティングシステムも起動します。

---

注 - poweron コマンドを使用して、個々のモジュールの電源を入れることもできます。詳細は、『Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』(819-5589) を参照してください。

---

システムアクティブインジケータが点灯します。サーバーによって電源投入時自己診断 (POST) が実行されます。

---

注 - poweron all コマンドでは、個々のコンポーネントの電源投入だけが行われません。このコマンドでは、Solaris ソフトウェアは起動しません。

---

poweron コマンドの詳細は、『Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』(819-5589) を参照してください。

---

## サーバーのスタンバイモードへの切り替え

システムの電源切断によるスタンバイモードへの切り替えは、次の 3 つの方法で行うことができます。

- Solaris コマンド行から

- LOM ポートから
- オン/スタンバイスイッチの使用

システムの電源が切断されてスタンバイモードに切り替わると、システムインジケータボードで点灯しているインジケータ LED は、電源 A と電源 B のインジケータのみになります。IB\_SSC アセンブリのアクティブ LED が点灯していますが、サーバーの正面からは見えません。

## ▼ Solaris コマンド行からシステムをスタンバイモードに切り替える

- システムプロンプトで、次のように入力します。

```
# shutdown -i5
```

## ▼ LOM ポートからシステムをスタンバイモードに切り替える

- lom> プロンプトで、次のように入力します。

```
lom>shutdown
```

- 強制的に電源を切断するには、次のように入力します。

```
lom>poweroff
```

```
This will abruptly terminate Solaris.  
Do you want to continue? [no]
```



---

**注意** – この場合、システムの状態にかかわらず、強制的にシステムがスタンバイモードに切り替わるため、ハードドライブ上のデータが破損する場合があります。

---

## ▼ オン/スタンバイスイッチによってシステムをスタンバイモードに切り替える



---

**注意** – オン/スタンバイスイッチでは、装置の電源は完全には切断されません。装置の電源を完全に切断するには、別途用意した回路遮断器の電源スイッチを切る必要があります。

---

- システムのオン/スタンバイスイッチの左側を押します。
- 強制的に電源を切断するには、オン/スタンバイスイッチの左側を 4 秒以上押し続けます。



---

**注意** – この場合、システムの状態にかかわらず、強制的にシステムがスタンバイモードに切り替わるため、ハードドライブ上のデータが破損する場合があります。

---

## サーバーの設定

電源を入れたあとで、この節で説明する SC の `setdate` コマンドおよび `setupnetwork` コマンドを使用してサーバーを設定します。

この節では、次の項目について説明します。

- 44 ページの「日付と時刻を設定する」
- 45 ページの「ネットワークパラメータを構成する」
- 47 ページの「Solaris オペレーティングシステムをインストールおよび起動する」

## ▼ 日付と時刻を設定する

タイムゾーンの地域で夏時間が使用されている場合は、夏時間が自動的に設定されません。

- LOM プロンプトで `setdate` コマンドを使用して、サーバーの日付、時刻、およびタイムゾーンを設定します。

次の例では、グリニッチ標準時 (GMT) からのオフセットを使用してタイムゾーンを太平洋標準時 (PST) に設定し、日付および時刻を 2004 年 4 月 20 日火曜日の 18 時 15 分 10 秒に設定する方法を示します。



```
lom>setdate -t GMT-8 042018152004.10
```

Solaris ソフトウェアが動作している場合は、代わりに Solaris の date コマンドを使用してください。

setdate コマンドの詳細は、『Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』(819-5589) を参照してください。

## ▼ パスワードを設定する

1. LOM プロンプトで、SC の password コマンドを入力します。
2. Enter new password プロンプトで、パスワードを入力します。
3. Enter new password again プロンプトで、パスワードを再入力します。

```
lom>password
Enter new password:
Enter new password again:
lom>
```

パスワードをなくした場合、または忘れた場合は、ご購入先にお問い合わせください。

## ▼ ネットワークパラメータを構成する

Netra 1290 サーバーは SC の LOM プロンプトおよび Solaris ソフトウェアから管理できます。LOM コンソール接続にアクセスするには、次の 2 つの方法があります。

- SC のシリアルポート接続経由
- 10/100BASE-T Ethernet ポートを使用した遠隔 (ネットワーク) 接続経由

---

**注** – このシステムはシリアルポート経由でのみ管理できますが、10/100BASE-T Ethernet ポートを使用する場合は、セキュリティー保護された個別のサブネットをこの接続用に使用してください。遠隔接続機能は、デフォルトでは使用可能になっていません。SSH または Telnet を使用してシステムを管理する場合は、setupnetwork コマンドを使用して、接続タイプを SSH または Telnet に設定してください。

---

1. LOM プロンプトで、setupnetwork と入力します。

```
lom>setupnetwork
```

## 2. スクリプトの質問に答えます。

---

注 – 各質問のあとで Return キーを押しても、現在の値は変更されません。

---

setupnetwork コマンドの詳細は、『Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』(819-5589)を参照してください。コード例 2-1 に setupnetwork コマンドの例を示します。

### コード例 2-1 setupnetwork コマンドの出力

```
lom> setupnetwork

Network Configuration
-----
Is the system controller on a network? [yes]:
Use DHCP or static network settings? [static]:
Hostname [hostname]:
IP Address [xxx.xxx.xxx.xxx]:
Netmask [xxx.xxx.xxx.x]:
Gateway [xxx.xxx.xxx.xxx]:
DNS Domain [xxxx.xxx.xxx]:
Primary DNS Server [xxx.xxx.xxx.xx]:
Secondary DNS Server [xxx.xxx.xx.x]:
Connection type (ssh, telnet, none) [ssh]:

Rebooting the SC is required for changes in the above network settings to take
effect.
lom>
```

各パラメータ値のエントリを入力するために必要な参考情報として、コード例 2-1 を使用してください。

---

# Solaris オペレーティングシステムのインストールおよび起動

LOM コマンドを使用するには、Lights Out Management 2.0 パッケージ (SUNWlomr、SUNWlomr、および SUNWlomm) をインストールしてください。

## ▼ Solaris オペレーティングシステムをインストールおよび起動する

1. LOM プロンプトにアクセスします。

LOM プロンプトにアクセスできる方法の詳細な手順は、『Netra 1290 サーバースステム管理マニュアル』(819-6907)を参照してください。

2. サーバーに電源を入れるには、`poweron` と入力します。

OpenBoot PROM の `auto-boot?` パラメータの設定に応じて、サーバーは Solaris オペレーティングシステム (OS) の起動を試みるか、OpenBoot PROM の `ok` プロンプトの状態のままになります。デフォルト設定は `true` です。この場合は Solaris OS の起動が試行されます。`auto-boot?` の設定が `false` であるか、起動可能な Solaris イメージがインストールされていない場合は、その後 OpenBoot PROM の `ok` プロンプトに戻ります。

```
lom>poweron
<POST messages displayed here . . . >
. . .
. . .
ok
```

3. 必要に応じて、Solaris オペレーティングシステムをインストールします。

Solaris リリースに付属の Solaris のインストールマニュアルを参照してください。

`ok` プロンプトで、OpenBoot PROM の `boot` コマンドを入力して Solaris OS を起動します。

```
ok boot [device]
```

任意の `device` パラメータについては、OpenBoot PROM の `devalias` コマンドを参照してください。このコマンドを入力すると、定義済みの別名が表示されます。

Solaris オペレーティングシステムが起動したあと、`login:` プロンプトが表示されます。

```
login:
```

---

# Lights Out Management パッケージのインストール

Netra 1290 サーバーには、次の 3 つの LOM パッケージが必要です。

- SUNWlomu (LOMlite ユーティリティ (usr))
- SUNWlomm (LOMlite マニュアルページ)
- SUNWlomr (LOM ドライバ)

これらのパッケージは、次の URL の Solaris ソフトウェアダウンロードセンターから入手できます。

<http://www.sun.com/download/>

「Systems Administration」の下の「Systems Management」リンクをクリックします。

---

注 - これらのパッケージの最新パッチは、SunSolve からパッチ 110208 で入手できます。最新の LOM ユーティリティのアップデートを使用するために、パッチ 110208 の最新バージョンを SunSolve から入手して Netra 1290 サーバーにインストールすることを強くお勧めします。

---

## ▼ LOM ドライバをインストールする

- スーパーユーザーで、次のように入力します。

コード例 2-2 LOM ドライバのインストール

```
# pkgadd -d . SUNWlomr
Processing package instance <SUNWlomr> from </export/lom>

LOMlite driver (root)
(sparc) 2.0,REV=2000.08.22.14.14
Copyright 2000 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
## Executing checkinstall script.
Using </> as the package base directory.
## Processing package information.
## Processing system information.
   9 package pathnames are already properly installed.
## Verifying package dependencies.
## Verifying disk space requirements.
## Checking for conflicts with packages already installed.
## Checking for setuid/setgid programs.
```

## コード例 2-2 LOM ドライバのインストール (続き)

```
This package contains scripts which will be executed with super-user
permission during the process of installing this package.

Do you want to continue with the installation of <SUNWlomr> [y,n,?] y

Installing LOMlite driver (root) as <SUNWlomr>

## Installing part 1 of 1.
20 blocks
i.drivers (INFO): Starting
i.drivers (INFO): Installing /var/tmp/SUNWlomr/reloc/platform/sun4u/kernel/drv/lom
i.drivers (INFO): Installing /var/tmp/SUNWlomr/reloc/platform/sun4u/kernel/drv/lomp
i.drivers (INFO): Installing /var/tmp/SUNWlomr/reloc/platform/sun4u/kernel/drv/sparcv9/lom
i.drivers (INFO): Installing /var/tmp/SUNWlomr/reloc/platform/sun4u/kernel/drv/sparcv9/lomp
i.drivers (INFO): Installing /var/tmp/SUNWlomr/reloc/platform/sun4u/kernel/drv/sparcv9/lomv

i.drivers (INFO): Identified drivers 'lom lomp lomv'
i.drivers (INFO): Cleaning up old driver 'lom'...
Cleaning up old devlink entry 'type=ddi_pseudo;name=SUNW,lom lom'
i.drivers (INFO): Cleaning up old driver 'lomp'...
Cleaning up old devlink entry 'type=ddi_pseudo;name=lomp lomp'
i.drivers (INFO): Cleaning up old driver 'lomv'...
Cleaning up old devlink entry 'type=ddi_pseudo;name=SUNW,lomv \M0
type=ddi_pseudo;name=lomv \M0'
i.drivers (INFO): Cleaning up old driver 'lomh'...
Cleaning up old devlink entry 'type=ddi_pseudo;name=SUNW,lomh lom'

i.drivers (INFO): Adding driver 'lomp'...
driver = 'lomp'
aliases = ''
link = 'lomp'
spec = 'lomp'

Adding devlink entry 'type=ddi_pseudo;name=lomp lomp'
adding driver with aliases '' perm '* 0644 root sys'
devfsadm: driver failed to attach: lomp
Warning: Driver (lomp) successfully added to system but failed to attach

i.drivers (INFO): Adding driver 'lomv'...
driver = 'lomv'
aliases = 'SUNW,lomv'
link = 'SUNW,lomv lomv'
spec = '\M0'

Adding devlink entry 'type=ddi_pseudo;name=SUNW,lomv \M0'
Adding devlink entry 'type=ddi_pseudo;name=lomv \M0'
adding driver with aliases 'SUNW,lomv' perm '* 0644 root sys'
devfsadm: driver failed to attach: lomv
Warning: Driver (lomv) successfully added to system but failed to attach

i.drivers (INFO): Adding driver 'lom'...
```

## コード例 2-2 LOM ドライバのインストール (続き)

```
driver = 'lom'
aliases = 'SUNW,lomh SUNW,lom'
link = 'SUNW,lomh SUNW,lom'
spec = 'lom'

Adding devlink entry 'type=ddi_pseudo;name=SUNW,lomh lom'
Adding devlink entry 'type=ddi_pseudo;name=SUNW,lom lom'
adding driver with aliases 'SUNW,lomh SUNW,lom' perm '* 0644 root sys'
devfsadm: driver failed to attach: lom
Warning: Driver (lom) successfully added to system but failed to attach
i.drivers (SUCCESS): Finished

[ verifying class <drivers> ]

Installation of <SUNWlomr> was successful.
```

---

注 - SUNWlomr パッケージのインストール時に表示される、lomh、lomv、および lom ドライバの添付に関する警告メッセージは問題なく無視することができます。これは、SUNWlomr パッケージは Netra 1290 サーバーでは使用されないためです。ただし、将来のパッチによる正常なアップグレードを可能にするには、このパッケージが存在する必要があります。

---

## ▼ LOM ユーティリティーをインストールする

- スーパーユーザーで、次のように入力します。

## コード例 2-3 LOM ユーティリティーのインストール

```
# pkgadd -d . SUNWlomu

Processing package instance <SUNWlomu> from </export/lom>

LOmlite Utilities (usr)
(sparc) 2.0,REV=2000.08.22.14.14
Copyright 2000 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Using </> as the package base directory.
## Processing package information.
## Processing system information.
  4 package pathnames are already properly installed.
## Verifying package dependencies.
## Verifying disk space requirements.
## Checking for conflicts with packages already installed.
## Checking for setuid/setgid programs.
```

### コード例 2-3 LOM ユーティリティーのインストール (続き)

```
Installing LOMlite Utilities (usr) as <SUNWlomu>

## Installing part 1 of 1.
2333 blocks

Installation of <SUNWlomu> was successful.
```

## ▼ LOM マニュアルページをインストールする

- スーパーユーザーで、次のように入力します。

### コード例 2-4 LOM マニュアルページのインストール

```
# pkgadd -d . SUNWlomm

Processing package instance <SUNWlomm> from </export/lom>

LOMlite manual pages
(sparc) 2.0,REV=2000.08.22.14.14
Copyright 2000 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Using </> as the package base directory.
## Processing package information.
## Processing system information.
    5 package pathnames are already properly installed.
## Verifying disk space requirements.
## Checking for conflicts with packages already installed.
## Checking for setuid/setgid programs.

Installing LOMlite manual pages as <SUNWlomm>

## Installing part 1 of 1.
71 blocks

Installation of <SUNWlomm> was successful.
```





## 付録 A

# Netra 1290 サーバーの接続

---

この付録では、サーバーの設置を完了するために使用できるケーブルおよびコネクタについて説明します。この付録の内容は、次のとおりです。

- 53 ページの「外部 I/O 接続の位置」
- 54 ページの「PCI+ IB\_SSC アセンブリ」
- 55 ページの「SCSI コネクタ」
- 56 ページの「アラームポート」
- 57 ページの「NET0/NET1 Ethernet ポート」
- 58 ページの「10/100BASE-T LOM Ethernet ポート」
- 59 ページの「LOM シリアルポート A およびシリアルポート B」

---

## 外部 I/O 接続の位置

図 A-1 に、Netra 1290 サーバーの外部 I/O 接続の位置を示します。

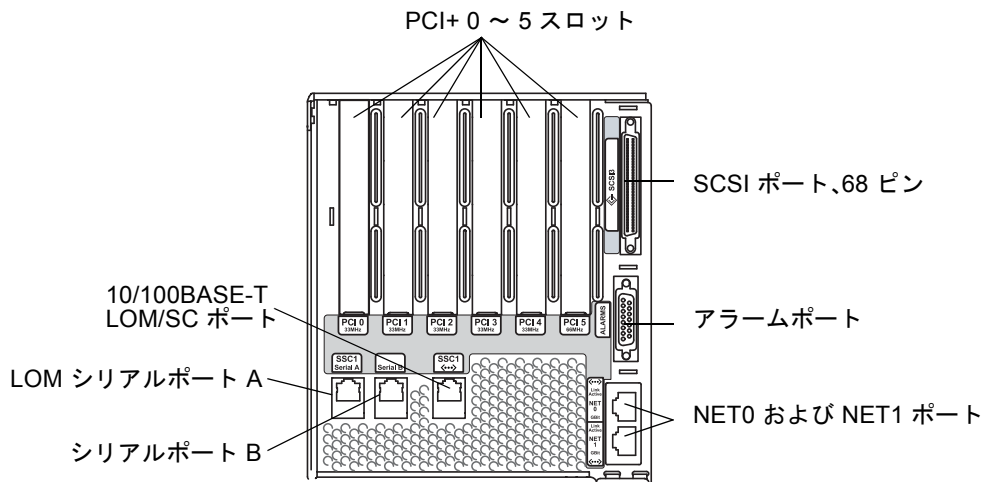


図 A-1 外部 I/O 接続の位置

## PCI+ IB\_SSC アセンブリ

注 - IB6 リーフ (対の 2 つのスロット) に、速度の異なる別の種類のカードを混在させないでください。これは、リーフスロットが、リーフに取り付けられたカードのセットの中のもっとも低い速度およびもっとも低いモードで動作するためです。たとえば、33 MHz の PCI カードをスロット 0 に、66 MHz の PCI カードをスロット 1 に取り付けた場合は、リーフ上のどちらのスロットも、低い方の 33 MHz PCI モードで動作します。IB6 リーフは、スロット 0 と 1、2 と 3、および 4 と 5 の対で構成されます。また、すべてのスロットが PCI+ モードでのみ動作します。

PCI+ IB\_SSC アセンブリには、0 ~ 5 のラベルの付いた 6 つの PCI+ スロットがあります。サーバーを背面から見ると、左側にスロット 0 が、右側にスロット 5 があります。6 つのスロットはすべて、最大 66 MHz をサポートしています。PCI+ スロットはホットスワップ対応ではありません。また、スロットはすべてハーフサイズで、5V シグナリング (信号) をサポートしていません。

# SCSI コネクタ

SCSI コネクタは、68 ピン SCSI コネクタです (図 A-2)。表 A-1 にピン配列の情報を示します。

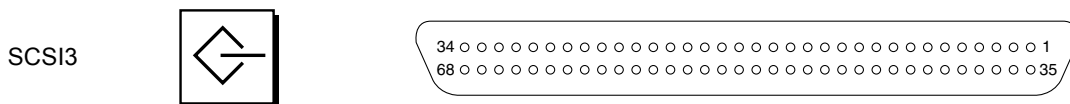


図 A-2 68 ピン SCSI コネクタ

表 A-1 68 ピン SCSI コネクタのピン配列

ピン番号	信号名	種類	ピン番号	信号名	種類	ピン番号	信号名	種類
1	+DB(12)	入出力	24	+ACK	入出力	47	-DB(7)	入出力
2	+DB(13)	入出力	25	+RST	入出力	48	-DB(P0)	入出力
3	+DB(14)	入出力	26	+MSG	入出力	49	Ground	信号接地
4	+DB(15)	入出力	27	+SEL	入出力	50	Ground	信号接地
5	+DB(P1)	入出力	28	+C/D	入出力	51	Tempwpr	電源
6	+DB(0)	入出力	29	+REQ	入出力	52	Tempwpr	電源
7	+DB(1)	入出力	30	+I/O	入出力	53	予約済み	なし
8	+DB(2)	入出力	31	+DB(8)	入出力	54	Ground	信号接地
9	+DB(3)	入出力	32	+DB(9)	入出力	55	-ATN	入出力
10	+DB(4)	入出力	33	+DB(10)	入出力	56	Ground	信号接地
11	+DB(5)	入出力	34	+DB(11)	入出力	57	-BSY	入出力
12	+DB(6)	入出力	35	-DB(12)	入出力	58	-ACK	入出力
13	+DB(7)	入出力	36	-DB(13)	入出力	59	-RST	入出力
14	+DB(P0)	入出力	37	-DB(14)	入出力	60	-MSG	入出力
15	Ground	信号接地	38	-DB(15)	入出力	61	-SEL	入出力
16	Diffusion	アナログ	39	-DB(P1)	入出力	62	-C/D	入出力
17	Tempwpr	電源	40	-DB(0)	入出力	63	-REQ	入出力

表 A-2 68 ピン SCSI コネクタのピン配列 (続き)

ピン番号	信号名	種類	ピン番号	信号名	種類	ピン番号	信号名	種類
18	Tempwtr	電源	41	-DB(1)	入出力	64	-I/O	入出力
19	予約済み	なし	42	-DB(2)	入出力	65	-DB(8)	入出力
20	Ground	信号接地	43	-DB(3)	入出力	66	-DB(9)	入出力
21	+ATN	入出力	44	-DB(4)	入出力	67	-DB(10)	入出力
22	Ground	信号接地	45	-DB(5)	入出力	68	-DB(11)	入出力
23	+BSY	入出力	46	-DB(6)	入出力			

## SCSI 実装

PCI+ IB\_SSC アセンブリの場合、組み込まれている SCSI サブシステムは SCSI Ultra-320 (UltraSCSI) 低電圧差動型パラレルインタフェースです。

- 16 ビット SCSI バス
- 320 Mbps のデータ転送速度

サポートされる最大ケーブル長は、10 m (33 フィート) です。

## アラームポート

アラームサービスポートは、DB-15 オスコネクタです (図 A-3)。表 A-3 に、ピン配列の情報を示します。

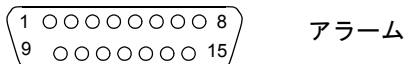


図 A-3 DB-15 (オス) アラームサービスポートコネクタ

表 A-3 アラームサービスポートコネクタのピン配列

ピン	信号名	説明	状態
1	接続なし		
2	接続なし		
3	接続なし		
4	接続なし		
5	SYSTEM_NO	UNIX® が動作中	通常は開いている
6	SYSTEM_NC	UNIX が動作中	通常は閉じている
7	SYSTEM_COM	UNIX が動作中	共通
8	ALARM1_NO	アラーム 1	通常は開いている
9	ALARM1_NC	アラーム 1	通常は閉じている
10	ALARM1_COM	アラーム 1	共通
11	ALARM2_NO	アラーム 2	通常は開いている
12	ALARM2_NC	アラーム 2	通常は閉じている
13	ALARM2_COM	アラーム 2	共通
14	接続なし		
15	接続なし		

## NET0/NET1 Ethernet ポート

NET0/NET1 Ethernet ポートは、シールド付き RJ-45 コネクタです (図 A-4)。  
NET0/NET1 Ethernet ポートは、ギガビット Ethernet RJ-45 ポートとも呼ばれます。  
表 A-4 に、ピン配列の情報を示します。

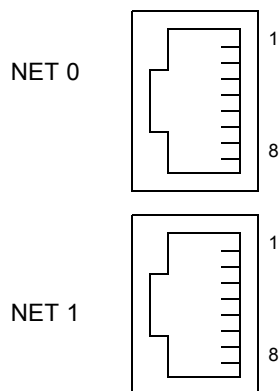


図 A-4 RJ-45 Gigabit Ethernet コネクタ

表 A-4 RJ-45 Gigabit Ethernet コネクタのピン配列

ピン	信号名	ピン	信号名
1	TRD0_H	5	TRD2_L
2	TRD0_L	6	TRD1_L
3	TRD1_H	7	TRD3_H
4	TRD2_H	8	TRD3_L

## 10/100BASE-T LOM Ethernet ポート

10/100BASE-T LOM Ethernet ポートは、RJ-45 より対線 Ethernet (TPE) コネクタです (図 A-5)。このポートは、システムコントローラの Ethernet ポートとも呼ばれます。表 A-5 に、ピン配列の情報を示します。

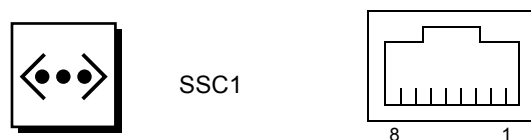


図 A-5 RJ-45 TPE ソケット

表 A-5 より対線 Ethernet コネクタのピン配列

ピン	説明	ピン	説明
1	TXD+	5	コモンモード終端
2	TXD-	6	RXD-
3	RXD+	7	コモンモード終端
4	コモンモード終端	8	コモンモード終端

## より対線 Ethernet ケーブルによる接続

8 ピン TPE コネクタに接続可能な TPE ケーブルを、次に示します。

- 10BASE-T の場合は、シールド付きより対線 (STP) ケーブルを使用します。
  - カテゴリ 3 (STP-3、ボイスグレード)
  - カテゴリ 4 (STP-4)
  - カテゴリ 5 (STP-5、データグレード)
- 100BASE-T の場合は、シールド付きより対線カテゴリ 5 (STP-5、データグレード) ケーブルを使用します。

表 A-6 TPE STP-5 ケーブルの長さ

ケーブルの種類	用途	最大長
シールド付きより対線カテゴリ 5 (STP-5、データグレード)	10BASE-T	1000 m (3282 フィート)
シールド付きより対線カテゴリ 5 (STP-5、データグレード)	100BASE-T	100 m (327 フィート)

## LOM シリアルポート A およびシリアルポート B

LOM シリアルポート A およびシリアルポート B は、RJ-45 コネクタを使用します (図 A-6)。LOM シリアルポート A は、システムコントローラのシリアルポートとも呼ばれます。表 A-7 に、両方のシリアルポートの同一のピン配列情報を示します。

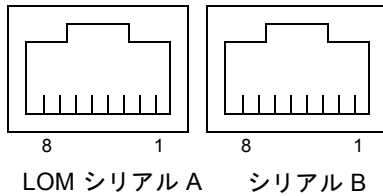


図 A-6 RJ-45 シリアルコネクタ

表 A-7 RJ-45 シリアルコネクタのピン配列

ピン	信号
1	RTS
2	DTR
3	TXD
4	Signal Ground
5	Signal Ground
6	RXD
7	DSR
8	CTS

注 - シリアルポート B は予約されています。

表 A-8 に、LOM シリアル A 接続を使用するために必要な設定を示します。このポートの設定は変更できません。使用している特定の端末サーバーについては、そのメーカーのマニュアルで確認してください。LOM シリアル A での通信は、LOM デバイスによる割り込みの影響を受ける可能性があります。『Netra 1290 サーバースystem 管理マニュアル』(819-6907) を参照してください。

表 A-8 LOM シリアル A 接続のデフォルト設定

パラメータ	設定
コネクタ	LOM シリアル A
速度	9600 ボー
パリティ	なし
ストップビット	1



表 A-8 LOM シリアル A 接続のデフォルト設定 (続き)

パラメータ	設定
データビット	8

## シリアル接続での DB-25 アダプタの使用

端末からの接続には、システムに付属の DB-25 (25 ピン DSUB オス/8-POS RJ-45 メス) アダプタ (パーツ番号 530-2889)、または同一のピンの相互接続が可能な代替アダプタのいずれかを使用します。Sun が提供する DB-25 アダプタを使用すると、Sun のほとんどのシステムに接続できます。表 A-9 に、DB-25 アダプタで機能するピンの相互接続を示します。

表 A-9 Sun の DB-25 アダプタでのピンの相互接続

シリアルポート (RJ-45 コネクタ) のピン	25 ピンコネクタのピン
ピン 1 (RTS)	ピン 5 (CTS)
ピン 2 (DTR)	ピン 6 (DSR)
ピン 3 (TXD)	ピン 3 (RXD)
ピン 4 (Signal Ground)	ピン 7 (Signal Ground)
ピン 5 (Signal Ground)	ピン 7 (Signal Ground)
ピン 6 (RXD)	ピン 2 (TXD)
ピン 7 (DSR)	ピン 20 (DTR)
ピン 8 (CTS)	ピン 4 (RTS)

## シリアル接続での DB-9 アダプタの使用

9 ピンシリアルコネクタを持つ端末に接続するには、DB-9 (9 ピン DSUB メス/8-POS RJ-45 メス) アダプタを使用します。表 A-10 に、DB-9 アダプタで機能するピンの相互接続を示します。

表 A-10 DB-9 アダプタでのピンの相互接続

シリアルポート (RJ-45 コネクタ) のピン	9 ピンコネクタ
ピン 1 (RTS)	ピン 8 (CTS)
ピン 2 (DTR)	ピン 6 (DSR)
ピン 3 (TXD)	ピン 2 (RXD)
ピン 4 (Signal Ground)	ピン 5 (Signal Ground)

表 A-10 DB-9 アダプタでのピンの相互接続 (続き)

シリアルポート (RJ-45 コネクタ) のピン	9 ピンコネクタ
ピン 5 (Signal Ground)	ピン 5 (Signal Ground)
ピン 6 (RXD)	ピン 3 (TXD)
ピン 7 (DSR)	ピン 4 (DTR)
ピン 8 (CTS)	ピン 7 (RTS)

# 索引

---

## E

### Ethernet

- TPE の接続, 59
- ケーブル長, 59
- 接続, 57

## I

### I/O

- コネクタの位置, 53

## L

### LOM

- アダプタ
  - DB-25, 61
  - DB-9, 61
- 接続
  - Ethernet, 58
  - シリアル, 59

## P

- password コマンド, 45
- PCI+ IB\_SSC の条件, 54
- pkgadd コマンド, 48
- poweroff コマンド, 43
- poweron コマンド, 42

## S

### SCSI

- コネクタ, 55
- 実装, 56
- setdate コマンド, 44
- setupnetwork コマンド, 45
- shutdown コマンド, 43

## あ

- アラームコネクタ, 56

## い

### インストール

- LOM, 48
  - ドライバ, 48
  - マニュアルページ, 51
  - ユーティリティ, 50
- Solaris, 46

## お

- オン/スタンバイスイッチ, 40, 41
  - スタンバイモード, 44
  - 電源投入, 41
  - 無効化, 41

## か

管理コンソール, 35

## け

ケーブル管理アーム

CMA-800、取り付け, 26

CMA-Lite、取り付け, 25

取り付け, 24

ケーブル長, 59

## こ

コマンド

password, 45

pkgadd, 48

poweroff, 43

poweron, 42

setdate, 44

setupnetwork, 45

shutdown, 43

## し

システムコンソール

パスワード, 45

準備

キャビネットへのサーバーの設置, 15

スライドレール, 8

## す

スタンバイモード

LOM から, 43

Solaris から, 43

オン/スタンバイスイッチから, 44

スライドレール

準備, 8

調節, 5

取り付け, 4

19 インチの 2 ポストトラック, 14

19 インチの 4 ポストキャビネット, 13

Sun Fire または StorEdge キャビネット, 9

Sun Rack 900 キャビネット, 11, 13

下部位置, 9, 11

上部位置, 10, 13

内部, 6

マウントキット, 4

スライドレールの調節, 5

## せ

接続, 59

Ethernet, 57

I/O アセンブリ, 37

LOM

Ethernet, 58

シリアル, 59

SCSI, 55

アラーム, 56

管理コンソール, 36

はじめて, 35

システムコントローラ, 34

電源ケーブル, 33

設定, 39

## て

電源投入, 41

LOM コマンド, 42

オン/スタンバイスイッチ, 41

## と

取り付け

CMA-800, 26

CMA-Lite, 25

キャビネットへのサーバーの設置, 15

準備, 15

搭載, 17

ケーブルおよびハードウェア, 40

ケーブル管理アーム, 24

スライドレール, 4

19 インチの 2 ポストトラック, 14

- 19 インチの 4 ポストキャビネット, 13
- Sun Fire または StorEdge キャビネット, 9
- Sun Rack 900 キャビネット, 11, 13
  - 下部位置, 9, 11
  - 上部位置, 10, 13
  - 内部, 6
  - ロックナット, 22
- 追加
  - 周辺装置, 38
  - ハードウェア, 37
  - ロックナット, 22

## ね

- ネットワークパラメータ  
構成, 45

## ひ

- 日付と時刻、設定, 44

